

アジアで学ぶ 世界で学ぶ

中山 雅之
Nakayama Masayuki

躍動する 21 世紀のアジア、この広い世界で活躍できる人材を育成することが学部目的です。アジアという拡張しながら複雑化する社会を的確に捉える為には、一つの領域で考えるだけでは事足りません。領域を越えて物事をとらえる、脱領域という姿勢が重要です。また、多様で複合的な社会では、他者を理解し異文化を理解するコミュニケーション力が求められます。そしてこのアジアは、遠くから眺めているだけでは、本質を理解することはできません。教室で基礎的な素養を身に付けた後は現場に飛び込みます。

行き先はどこにしますか？ 学びの場は広くアジア全域・世界各地です。最初の一步は少し怖いかもしれませんが、勇気が必要かもしれません。長期留学する前に、まずは 1 ヶ月ほどの研修で現地の様子を見てみるのも良いでしょう。その後 1 年ほどゆっくりと現地で学ぶ。そこでは生きた文化が身につく、世界中から来る留学生の友人もできるでしょう。ポップミュージック響くステージに耳を傾けて音楽文化を理解する。そこに住む人びとの民族衣装を着て宗教について考える。大草原で遊牧民が暮らすテントで生活をする。世界遺産を観ながらアジアヌードルを味わう。スパイスの香りを鼻腔に感じながら世界を相手にする IT 企業でインターンをする。これでまた、みなさんが知る世界がさらに広がりました。

こうして学びを続け、社会に出る時には、こんな力をアピールできるでしょう。言語によるコミュニケーション力、留学によって得た自律性や柔軟性、アジアの専門知識、学び続けたことによる忍耐力。この 4 年間でみなさんの付加価値をどんどん高め、将来の選択肢をたくさん増やしましょう。ご成長を楽しみにしています。良い学びの時間を。

(学部長)

目次

21世紀アジア学部とは ……………	4	学生生活 ……………	37
基本事項 ……………	7	1. 専任教員……………	38
1. 履修……………	8	2. 学籍番号と学生証……………	39
2. 授業科目の構成と卒業要件……………	9	3. 学生ポータルサイト等……………	39
3. 試験・レポート……………	10	4. 奨学生制度と融資……………	40
4. 成績と進級条件……………	11	5. 各種届出と証明書・学割……………	41
5. 欠席・遅刻・公欠……………	13	6. 学籍……………	42
6. 休講・補講と学校感染症……………	14	7. 転部……………	42
7. 履修登録……………	15	キャンパスマップ ……………	43
授業科目 ……………	17	1. 町田キャンパス……………	44
1. 授業科目一覧……………	18	2. 30号館……………	45
2. 必修科目……………	20	4. 12号館……………	47
3. 履修上の注意……………	21	5. 11号館……………	48
4. 共通教育科目……………	22	6. 世田谷キャンパス……………	49
5. 外国語科目……………	23	7. 多摩キャンパス……………	50
6. 専門科目：学部共通（必修科目）……………	24	8. 学内連絡先……………	51
7. 専門科目：学部共通（選択科目）……………	27	学則・諸規程 ……………	53
8. 自由選択枠……………	28	1. 国士舘大学学則……………	54
特色あるプログラム・資格課程 ……………	29	2. 諸規程……………	54
1. グローバルスタディプログラム……………	30	3. 試験に関する学部内規……………	55
2. 文化遺産プログラム……………	31	4. 教職課程学部内規……………	57
3. 学芸員課程……………	31		
4. スポーツアジアプログラム……………	32		
5. 日本語教員養成課程……………	33		
6. 教職課程……………	34		
7. その他……………	36		

(内容は一部変更になることがあります)

21 世紀アジア学部とは

21 世紀アジア学部は、1998 年に答申された、文部省・大学審議会による「21 世紀の大学像と今後の改革方策について（答申）－競争的環境の中で個性が輝く大学」での指針などを背景に、新たな時代の変化に対応した大学での教育・研究のあり方を徹底して追求した結果として、2002 年 4 月に、国士舘大学アジア・日本研究センターを直接の母体とし、国士舘大学附置古代イラク文化研究所などとも緩やかに連携するかたちで、誕生いたしました。

その後、2007 年 4 月に、21 世紀アジア学部を母体とする修士課程とアジア・日本研究センターとイラク古代文化研究所を母体とする博士課程からなる大学院グローバルアジア研究科が設置され、その後、2019 年 4 月にアジア日本研究センターを前身とする 21 世紀アジア学研究所が開所し、また、2022 年 4 月からは、同研究所に加え、イラク古代文化研究所も 21 世紀アジア学部付属研究所として再出発することになり、今日にいたっています。

グローバルマジョリティとしてのアジアへの着目

新たな時代の変化に対応した大学での教育・研究のあり方を徹底的に追求するなかで、明らかになった、最も重要なポイントこそが、グローバル時代、グローバル社会における多数派・主流派を意味する、グローバルマジョリティとしてのアジアへの着目です。

この 21 世紀という、新たな千年紀のはじまりを意味し、グローバル時代とも呼ばれる新たな時代の起点において、ことを「人」に限っても、世界人口の 6 割以上をかかえ、現職のロンドン市長やニューヨーク市長が、また、近年の世界の企業価値ランキング TOP10 での CEO（最高経営責任者）のほとんどがアジア系であることなどからも自明なように、アジアがこのように位置づけられる、まるで「異世界」かのような状況となってきたのです。

新たな時代に対応した教育と研究

このように、未知の別世界と化しつつある状況を理解するのに適した手法があるとするれば、それがアンソロ・ビジョンということになります。この手法は社会人類学や文化人類学で培われ、未知の別世界を総体的にとらえようと、そこでの言語体系、知識体系、社会構造など、あるいは世界観、価値観、歴史認識など、さらには生業、技術、慣習といったことに目を向け、実際に「現場」に身を置き、現地調査を活かした問題解決の実践までを含みます。

もちろん、21 世紀アジア学部の骨格をなす、グローバル時代のリテラシー、グローバル時代のビジョン、グローバル時代のプロフェッションに関する教育と研究や、一部の教育方針なども、このアンソロ・ビジョンに由来します。そして、21 世紀アジア学部では、プロフェッションについての教育と研究を中心に、グローバル研究や地域研究はもとより、経営学、スポーツ、デザイン、図書館情報学、日本語教育、考古学など多種多様な専門分野の知見を超領域的に包摂し、グローバル時代に即した「国土の育成」に取り組んでいるのです。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の課程を経て21世紀アジア学を学び、その素養が身に付き、次の資質や能力を有していることが確認されることで、学士（アジア学）の学位が授与されます。

DP1. 知識 技能 態度

アジアや世界に関する、幅広い知識と教養を身に付け、分野横断的・脱領域的専門知識や技能を修得している。また、言語を中心とした総合的意思疎通・相互理解力も身に付けている。そして、これらを具体的に運用しようとする態度を有している。

DP2. 思考力 判断力 表現力

複雑な環境の中で、修得した知識・技能を活用して論理的に思考し、適切な判断を行え、その内容を他者に対してわかりやすく表現出来る。

DP3. 主体性 意欲 公徳心

主体的に学び続ける姿勢が身につけており、この後の人生で豊かな人間性を涵養できる素地が出来ていて、グローバル社会に貢献してそこで活躍しようとする強い意志を持っている。

DP4. 協働力 親和力 コミュニケーション力

日本やアジアの多様性と共通性を深く理解し、自分と異なる存在や社会への強い関心を持ち、他者を尊び協調して課題に対処する姿勢が身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与の方針で掲げる能力・態度を身に付けるために、読書・体験・反省・思索を繰り返して、知識修得と能力向上ができるカリキュラムを系統的に構成しています。

1. 教育課程と内容

(1) 豊かな教養を手に入れる（共通教育科目）

幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を涵養することを目的とした共通教育科目を用意しています。

(2) 言語能力の修得（外国語科目）

英語とアジア言語を学び、アジアや世界で活躍するために必要な言語コミュニケーション能力を習得します。

(3) 専門知識・能力の獲得（専門科目）

コミュニケーション能力や豊かな教養を身に付けることと並行して、21世紀アジア学を深く探究し専門知識・能力を獲得します。具体的には、地域・日本研究、文化・スポーツ、ビジネス・デザインの3つのコースのいずれか1つを選択して専門性を高めます。

2. 教育方法

(1) 講義による知識習得（読書）

教室において、専門性を有する教員による座学によって効率的に知識を習得します。

(2) 実習・実技による能力の定着（体験）

講義で学んだことを海外研修やインターンシップ、ボランティアなどで実践し、能力を自分のものにします。

(3) 総合化（反省・思索）

得た知識と実習による体験を省察し、更に必要な能力が何かを思索し、更なる能力の向上に必要な学習をおこないます。これにより知識・技能と思考力・判断力・表現力の総合化を図り、国際社会で活躍できる力を身に付けます。

3. 学修成果の評価

各授業は、到達目標が設定されており、試験やレポートなどによりその到達度を測定します。そして、最終的な学修成果は21世紀アジア学演習や21世紀アジア学研究によって総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

常に自らを向上させ、自律した自己を確立しようとする意志をもち、世界で活躍することを目指す学生を歓迎します。このような姿勢をもつ入学者希望者を適正に判定するために、次の観点から入学者選抜を実施します。

AP1. [知識・理解・技能]

21世紀アジア学部の教育を受けるのに必要な基礎学力や秀でた実技能力を有している。

(AP1-1) 高等学校などで身につけるべき標準的な知識を有している。

(AP1-2) スポーツ活動等において優秀な成績を収めている。

AP2. [思考力・判断力・表現力]

自らの知識や技能を用いて、ものごとを多面的に捉え、根拠に基づいた判断を行い、その結果を他者にわかりやすく説明できる力を有している。

AP3. [主体性・多様性・協働性]

グローバル化する社会において、自ら積極的に学び、多様な人々と協調して生きる姿勢を有している。

入学前に身に付けておくと望ましいこと

1. 日本やアジアの歴史や地理、政治や経済などの分野に関する知識。
2. 外国語でコミュニケーションができる基礎能力。

基本事項

1. 履修
2. 授業科目の構成と卒業要件
3. 試験・レポート
4. 成績と進級条件
5. 欠席・遅刻・公欠
6. 休講・補講と学校感染症
7. 履修登録

1. 履修

シラバス（授業計画）を参考にして、受講したい科目を選択し、自分で時間割を作成します。その時間割をもとに、履修登録を行い、授業に出て単位修得までの一連の流れを履修といいます。

オリエンテーション・ガイダンス → 時間割作成 → 履修登録 → 授業

単位制

単位制とは、授業を受講し、試験あるいはレポート等に合格することにより単位を修得していく制度です。原則として45時間の学修をもって1単位としています。通常1つの授業科目は、半期90分の授業が15回あります。この授業時間以外に予習や復習の時間を含めて45時間としています。

セメスター制

セメスター制とは1年を春期と秋期の2期に分け、学期（Semester：セメスター）ごとに成績を評価し単位を確定するものです。ほとんどの授業科目は半期15回で終了しますが、春期・秋期で授業が連続する授業科目もあります。

春期	秋期
4月1日～9月15日	9月16日～3月31日

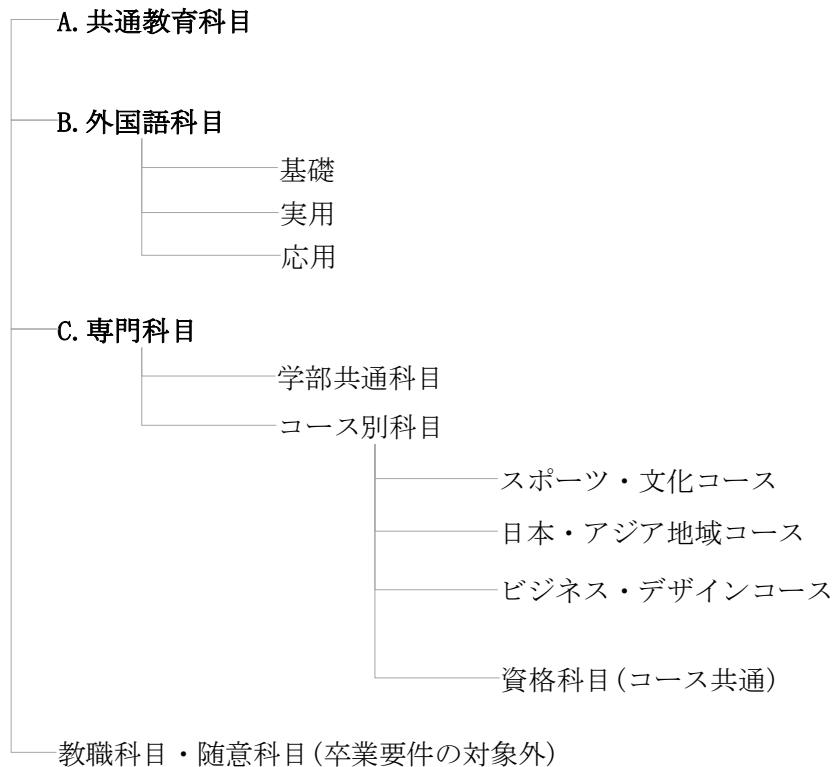
年度により変更になる場合があります

授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	12:55～14:25	14:40～16:10	16:25～17:55

2. 授業科目の構成と卒業要件

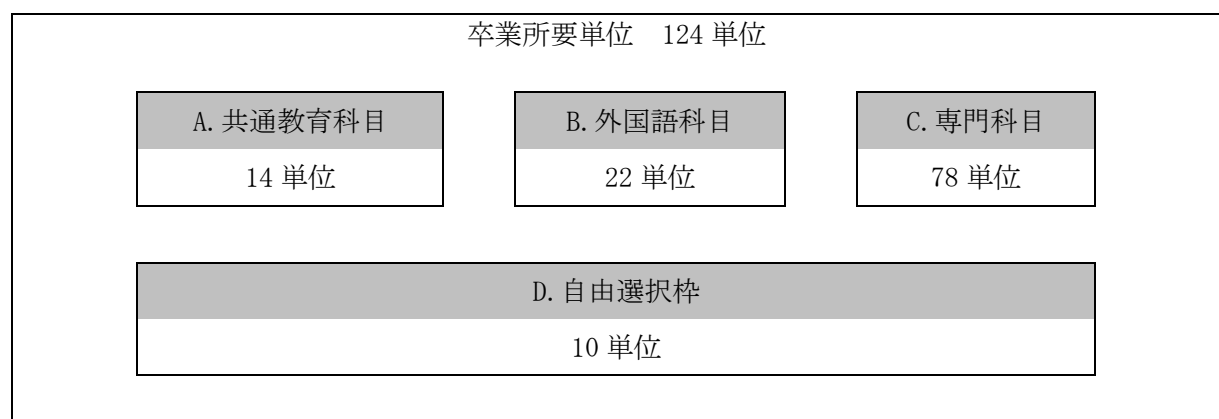
授業科目は卒業に必要な「共通教育科目」「外国語科目」「専門科目」の3つの科目区分と、卒業所要単位として扱われない科目（教職科目・随意科目）で構成されています。



卒業要件

通常4年間、8セメスター（休学期間を含まず）在籍し、必要な授業科目を含む124単位を修得すると卒業が認められ、学士（アジア学）の学位が授与されます。

124単位以上修得しても、各科目区分の卒業所要単位を修得していないと卒業することができないので注意してください。



3. 試験・レポート

定期試験

定期試験は春期及び秋期の各学期末に実施されます。一部の授業は、試験に代えてレポート、論文、または授業時の成績により評価されます。また、試験を欠席した場合、当該授業科目の単位修得を放棄したものとみなされます。

追試験

次に該当する理由でやむを得ず試験を受験できなかった場合、追試験を受けられます。必要書類を添付して追試験申請を行ってください。また、この他の正当な理由があると思う場合は学部事務課にご相談ください。

理由	必要書類
病気・けが	医療機関発行の診断書等 通院を証明できるもの
公欠	そのことを証明するもの（忌引の場合は会葬礼状等）
交通機関等の事故	各交通機関の発行する事故証明書またはそれに代わるもの
電車バス等の遅延	駅等で発行する遅延証明書

再試験

再試験は4年生（高学年生を含む）が、卒業期末に合格点に達しなかった授業科目があるときに実施されます。ただし、最大2科目分の単位修得により卒業要件を満たす可能性のある場合に限り申請ができます。そして期間内に申請を行い、科目担当教員の許可を得ると受験できます。

定期試験(定期試験に準ずるものを含む)における不正行為について

不正行為が発覚した際は当該期の全履修科目の単位認定がされません（通年科目を含む）。また、学則第73条に基づき、懲戒処分の対象となります。レポート課題においても、他者のコピーペーストやネット上のものを無断引用するなども不正行為となります。

4. 成績と進級条件

成績表記・評価

成績は 100 点法をもって評価され、成績評価は秀・優・良・可・不可及び欠席と表記されます。また、点数評価をせずに「認定」として単位認定する場合があります。

点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59 以下	評価不能	認定
Kaede-i	秀	優	良	可	不可	欠席	認定
成績通知書	秀	優	良	可	不	欠	認
成績証明書	秀	優	良	可	—	—	認
合否	合格				不合格		合格

- ・ 総授業数の3分の2以上の出席がない場合や試験を欠席した場合などは「欠席」となります。
- ・ 他大学等で修得した単位で本学の単位として認めたものは「認定」となります。
- ・ 成績証明書には合格した科目及び単位認定された科目のみ記載されます。
- ・ 追試験の評価は通常の試験と同様の成績評価がされます。
- ・ 再試験の評価は、0～69 点で成績評価がされます。
- ・ 不可になった科目は再度履修することができます。

通知

成績通知書は、学期ごとに保証人あてに郵送されます。不合格になった授業科目は、履修した年度のみ記載されます。また、成績通知書は、履修登録の際に必要なになりますので、各自保管しておいてください。

成績問い合わせ

授業への出席、課題等の提出、試験の成績等に自信があるにもかかわらず、成績通知書の評価が「不」または「欠」になっている場合は、学部事務課を通じて科目担当教員に確認しますので、定められた期間内に申請してください。

GPA 制度

GPA(Grade Point Average : 成績点平均値)とは、授業科目の評価を点数化したものです。主体的かつ充実した学修成果をあげることも目的としています。成績優秀者、留学、奨学金の選考等の判定基礎資料として活用します。また、単年度の GPA が 3.5 以上の人は、年間成績優秀者として表彰します。

不合格になった科目を再履修して合格点に達した場合、再履修前の GP (グレードポイント) は使用されず、合格点の GP のみが算出対象となります。また、卒業要件の対象とならない授業科目 (教職科目・随意科目) は対象になりません。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目の GP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{登録科目単位数の合計}}$$

評価	点数	GP
秀	90~100 点	4
優	80~89 点	3
良	70~79 点	2
可	60~69 点	1
不可	59 点以下	0
欠席	評価不能	0
認定	—	対象外

進級条件

学年の進級・卒業にあたってそれぞれ次のハードルがあります。これを越えられないと、次の学年に進むことができずに「留年」となり、卒業が遅れます。また、各学年で 2 セメスターを終えていないと進級できません。大学入学から卒業まで最長 8 年間在籍することができます。

1 年生 → 2 年生	1 年次の 1 年間に 8 単位以上を修得
2 年生 → 3 年生	2 年次の 1 年間に 8 単位以上を修得 2 年次修了時に卒業所要単位 40 単位以上を修得
3 年生 → 4 年生	3 年次の 1 年間に 8 単位以上を修得

4 年生に留年する場合 (高学年生)

4 年生修了時に卒業要件を満たしていないと卒業できず、高学年生となります。高学年生の授業料は、4 年生のおよそ半額となります。また、高学年生が、その後卒業要件を満たせば、春期でも秋期でも卒業することができます。

5. 欠席・遅刻・公欠

欠席

病気・怪我等、やむを得ない理由により 7 日以上欠席する（した）時は、学部事務課にその旨を報告し、欠席届を各科目担当教員へ提出してください。また、正当な理由がなく、無届で 3 ヶ月以上連続して欠席した場合、除籍（学則第 20 条）の対象となります。

遅刻

10 分以上遅刻した者は、特別な事情がない限り入室ができません。また、授業中の退室・入室も特別な許可を受けた場合以外はできません。

公欠（公認欠席）

次の場合は公欠となります。公欠は、原則として事前に科目担当教員に申し出てください。「公欠願」に必要事項を記入し認印を受けたうえで各科目担当教員へ願い出てください。諸事情により、事後になった場合は速やかに提出してください。（2 週間以内）

公欠は欠席として取り扱われますが、科目担当教員の判断により、配慮が受けられる場合があります。

理由	必要書類	認印
大学・学部行事		学部事務課
インターン・ボランティア・ゼミ合宿等		
親族が死亡した	会葬礼状等	
裁判員裁判に従事	従事したことを証明する書類	
特に学部長が認めたこと	関連資料・証明書等	
教育実習・介護等体験		教務課
試合等に登録出場者として出場	「大会参加願」（学生・厚生課）	クラブ部長等

6. 休講・補講と学校感染症

大学の行事または科目担当教員の都合により授業が休講となることがあります。休講となる場合は、事前に「Kaede-i」や「manaba」に情報が掲載されます。またメールアドレスにも情報が配信されます。なお、授業開始後30分が経過しても教員が現れない場合は、休講となります。

また、休講等により授業時間数の不足を補う必要が生じた場合は、補講を行うことがあります。

自然災害等に伴う臨時的休講措置

天候や自然災害などで休講になる場合があります。QRコードから見られます。



学校感染症出席停止に関する取扱い

学校感染症に罹患した場合は次の手続きにより、必ず届け出てください。

- ・ 発症時、健康管理室及び21世紀アジア学部事務課に電話連絡をしてください。感染予防の観点から登校は控えてください。
- ・ 医療機関で診察を受けてください。
- ・ 治癒の際に医療機関にて本学所定の「学校感染症治癒証明書」または「診断書（登校許可を明記）」に診断の証明を受けてください。
- ・ 治癒後、上記証明書を健康管理室に提出し、その後、学部事務課に来室してください。

21世紀アジア学部事務課：042-736-1050

町田健康管理室：042-736-2319

7. 履修登録

履修登録は、春期と秋期に定められた履修登録期間に、「Kaede-i」を使って Web 上で行います。春期には春期科目と通年科目を、秋期には秋期科目を登録します。履修登録を行っていない授業科目は、成績評価と単位付与の対象になりません。

履修登録の手順

- (i) 時間割案：シラバスや時間割表などを確認して時間割案を作成します
- (ii) 履修登録：時間割案を元に履修科目を登録します
- (iii) 履修確認：抽選結果を確認し必要であれば追加登録を行います
- (iv) 履修修正：第1回目の授業を受けて修正することができます（必修科目以外）
- (v) 履修辞退：一定期間の授業を受けた後に辞退できます

履修辞退理由例

- ・ 病気、事故等のやむを得ない事情により、学期途中で授業科目の履修が不可能になった場合。
- ・ 当該授業についていく知識が不足していて、単位修得が困難な場合。
- ・ 一部の履修登録科目を取消すことにより、全体として学修しやすい環境となる場合。

注意事項

- ・ 辞退した科目はその学期中に再び履修することはできません。
- ・ 通年科目は春期・秋期においても辞退は可能です。
- ・ 「必修科目」「外国語科目(選択必修科目)」(第三言語以外)は辞退できません。
- ・ 辞退する科目の代替え科目は追加登録できません。
- ・ 実習費等が発生する科目は辞退しても納入する必要がありまた返還もされません。
- ・ 申請内容を精査して辞退可否を判断します。

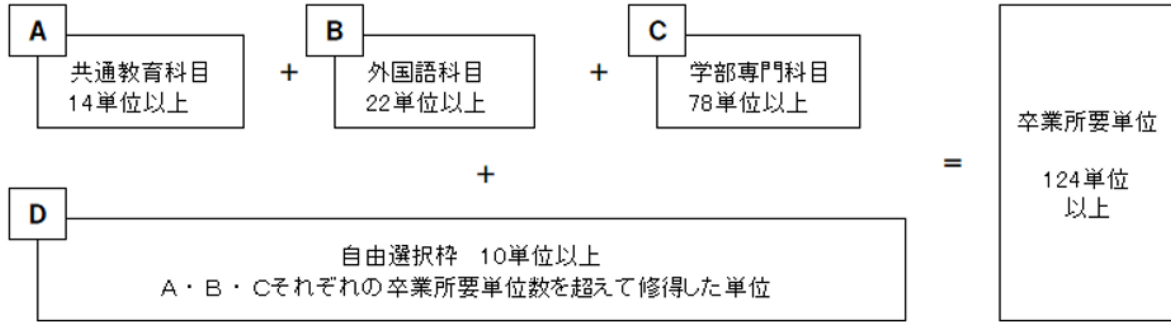
シラバス



授業科目

1. 授業科目一覧
2. 必修科目
3. 履修上の注意
4. 共通教育科目
5. 外国語科目
6. 専門科目：学部共通（必修科目）
7. 専門科目：学部共通（選択科目）
8. 自由選択枠

1. 授業科目一覧



A. 共通教育科目

△… 教職課程関連科目 ■… 必修
☆… 副専攻科目 ▨… 選択/選択必修

授業科目名	単位	学年				授業科目名	単位	学年				授業科目名	単位	学年				所要単位
		1	2	3	4			1	2	3	4			1	2	3	4	
☆ 国士館を知る (建学の精神と教育理念)	2	■				*△ AIとサイエンス	2	■				△ コンピュータリテラシー	2	■				必修 6単位
国士館を語る (継承する精神文化の探究)	2	■				アフリカの歴史と文化	2	▨				☆ AI基礎演習	1	▨				選択 8単位以上
国士館ゼミ	1	▨				地理と人間生活	2	▨				データリテラシー	2	▨				
☆ 防災リーダー養成論	2	▨				仕事と社会	2	▨				コンピュータネットワーク	2	▨				
☆ 防災リーダー養成論実習	2	▨				保育理論	2	▨				プログラミング基礎	2	▨				
文章表現の基礎	2	▨				ジェンダーと社会	2	▨				Webデザインの基礎	2	▨				
社会人基礎スキル	2	▨				文化と人間	2	▨				栽培	2	▨				
現代の論理	2	▨				現代社会論	2	▨				基礎物理学	2	▨				
哲学と現代	2	▨				持続可能な社会と生活	2	▨				物理学	2	▨				
宗教と人生	2	▨				日本国憲法	2	▨				日本の自然環境	2	▨				
人間と倫理	2	▨				グローバル社会を学ぶ	2	▨				スポーツと人体	2	▨				
人生と教育	2	▨				インターンシップ	2	▨				スポーツと社会	2	▨				
からだと心のつながり	2	▨				日本の歩み	2	▨				スポーツ実習 I・II	各1	▨			学年指定科目	
心の理解と対応	2	▨				日本の国際化	2	▨				スポーツ実習 III・IV	各1	▨				
日本の文学	2	▨				人と宇宙	2	▨				スポーツ実習 V・VI	各1	▨				
世界の名作	2	▨				数学入門	2	▨				スポーツ実習 VII・VIII	各1	▨				
中国の古典を読む	2	▨				☆ 数学(線形代数)	2	▨				書の世界	2	▨				
現代の政治	2	▨				☆ 数学(微分積分)	2	▨				アニメの世界	2	▨				
経済のしくみ	2	▨				☆ 数学(多変数関数の微積分)	2	▨				日本の伝統芸能	2	▨				
社会と人間	2	▨				☆ 統計学入門	2	▨				芸術の世界	2	▨				
法と社会	2	▨				☆ 確率論入門	2	▨				英語で学ぶ教養	2	▨				
日本の歴史と文化	2	▨				生物とその進化を探る	2	▨				ドイツ語で学ぶ教養	2	▨				
アジアの歴史と文化	2	▨				変動する地球	2	▨				フランス語で学ぶ教養	2	▨				
ヨーロッパの歴史と文化	2	▨				人間と地球環境	2	▨				中国語で学ぶ教養	2	▨				
アメリカの歴史と文化	2	▨				☆ データサイエンス基礎	2	▨				韓国語で学ぶ教養	2	▨				
イスラムの歴史と文化	2	▨				☆ データエンジニアリング基礎	2	▨				総合講座	2	▨				
						☆ AI基礎	2	▨				<small>* 自由選6大専攻コースシム連携授業科目</small>						
A. 合計 14 単位以上																		
以下は自由選択枠の単位として履修する																		
ボランティア実践 I	1	▨				ボランティア実践 III	1	▨				首都圏西部単位互換科目	※	▨				※単位数は科目により異なる
ボランティア実践 II	1	▨				ボランティア実践 IV	1	▨										

B. 外国語科目

英語・中国語・韓国語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語・ロシア語・アラビア語
1年次の留学生は日本語を選択する

	授業科目名	単位	学年				授業科目名	単位	学年				授業科目名	単位	学年				所要単位
			1	2	3	4			1	2	3	4			1	2	3	4	
基礎	基礎英語1・2	各3	■																必修6単位
	基礎中国語1・2	各3	▨				基礎ベトナム語1・2	各3	▨				基礎アラビア語1・2	各3	▨				選択必修6単位
	基礎韓国語1・2	各3	▨				基礎インドネシア1・2	各3	▨				基礎日本語1・2	各3	▨				1言語を選択
	基礎タイ語1・2	各3	▨				基礎ロシア語1・2	各3	▨										
実用	実用中国語1・2	各3	▨				実用ベトナム語1・2	各3	▨				実用アラビア語1・2	各3	▨				選択必修6単位
	実用韓国語1・2	各3	▨				実用インドネシア1・2	各3	▨				実用日本語1・2	各3	▨				英語または1年次に履修したアジア言語から1言語選択
	実用タイ語1・2	各3	▨				実用ロシア語1・2	各3	▨				実用英語1・2	各3	▨				
応用	応用中国語1・2	各2	▨				応用ベトナム語1・2	各2	▨				応用アラビア語1・2	各2	▨				選択必修4単位
	応用韓国語1・2	各2	▨				応用インドネシア1・2	各2	▨				応用日本語1・2	各2	▨				2年次に履修した1言語を選択
	応用タイ語1・2	各2	▨				応用ロシア語1・2	各2	▨				応用英語1・2	各2	▨				
B. 合計 22 単位以上																			

C. 専門科目

	科目	単 位	学年				科目	単 位	学年				科目	単 位	学年				卒業所要単位
			1	2	3	4			1	2	3	4			1	2	3	4	
学部共通	21世紀アジア学1	2	■				海外研修1	2	■				21世紀アジア学演習1	2	■				必修 32単位
	21世紀アジア学2	2	■				基礎ゼミナール1	2	■				21世紀アジア学演習2	2	■				
学部共通	キャリアデザイン1	2	■				基礎ゼミナール2	2	■				21世紀アジア学演習3	2	■			必修 32単位	
	キャリアデザイン2	2	■				課題研究1-4	各2	■				21世紀アジア学演習4	2	■				
学部共通	キャリアデザイン3	2	■										21世紀アジア学研究1-2	各2	■			必修 32単位	
	日本の伝統科目:柔道 / 剣道 / 弓道 / 空手道 / 合気道 / 茶道 / 華道 / 書道 / 日本舞踊 / 謡・仕舞 / 日本の伝統音楽	各1																	選択必修2単位以上
学部共通	ボランティア1-4	各2					海外研修2	2					特別課題研究1-5	各2				選択 44単位以上	
	インターンシップ1-4	各2					現代アジアの文化1・2	各2					特別インターンシップ1-4	各10					
学部共通	社会的多様性理解	2					基礎ゼミナール3・4	各2					特別研究1-4	各10				選択 44単位以上	
	アジアの伝統音楽	2					△ 東南アジア地域研究(大陸部) I	2					△ 東アジアの経済	2					選択したコース の単位を20単位 以上含むこと
学部共通	アジアの映画	2					△ 東南アジア地域研究(大陸部) II	2					△ 東南アジアの経済	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	アジアのポップカルチャー	2					△ 東南アジア地域研究(島しょ部) I	2					△ 南アジアの経済	2					
学部共通	日本のポップカルチャー	2					△ 東南アジア地域研究(島しょ部) II	2					△ ミクロ経済学	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	日本の漫画・アニメーション	2					△ 東アジア地域研究(中国) I	2					△ マクロ経済学	2					
学部共通	アジアのファッション文化	2					△ 東アジア地域研究(中国) II	2					△ 経済学概論(国際経済を含む)	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	アジアの食文化	2					△ 東アジア地域研究(韓国) I	2					△ 現代の国際経済	2					
学部共通	ビデオジャーナリズム	2					△ 東アジア地域研究(韓国) II	2					△ 法学概論(国際法を含む)	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	メディアと社会	2					△ 東アジア地域研究(日本) I	2					△ 知的財産権とビジネス	2					
学部共通	△ 日本とアジアの文化交流	2					△ 東アジア地域研究(日本) II	2					△ 現代ビジネスと法	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	日本とアジアのスポーツ交流	2					△ 西アジア地域研究 I	2					△ 日本企業とアジア社会	2					
学部共通	万国博覧会とアジア	2					△ 西アジア地域研究 II	2					△ グローバル化とアジアの貿易	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	アジアのNGO	2					△ 中央アジア地域研究 I	2					△ アカウンティング	2					
学部共通	△ 平和と共生	2					△ 中央アジア地域研究 II	2					△ 戦略マネジメント	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	国際ボランティア	2					△ 南アジア地域研究 I	2					競争戦略	2					
学部共通	ボランティア活動の方法と実践	2					△ 南アジア地域研究 II	2					△ マーケティング	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	災害とドローン	1					△ 日本の文化遺産	2					スタートアップ	2					
学部共通	防災トッパーリーダー養成論	2					△ 国史概説(原始~中世)	2					△ マネジメント	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	アジアの身体技法	2					△ 国史概説(近世~現代)	2					ビジネス実務	2					
学部共通	アジアの舞踊	2					安全保障とアジア	2					プレゼンテーションスキル	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	身体表現スキル	2					アジアの地政学	2					△ 持続可能性とイノベーション	2					
学部共通	スポーツビジネス	2					△ アジアにおける地域協力	2					△ ソーシャルデザイン	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
	アスリート実習1-4	各2					△ アジアの国際関係	2					都市デザイン	2					
学部共通							△ 東南アジア関係論	2					△ 観光と異文化	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
							△ 日中関係論	2					ホテルマネジメント	2					
学部共通							△ 日韓関係論	2					ホスピタリティ論	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
							△ 異文化理解	2					アジアのツーリズム	2					
学部共通							△ 多文化社会	2					情報技術と社会デザイン	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能	
												デザイン・アート	2						
学部共通												デジタルデザイン	2				学部共通の選 択科目・資格科 目は選択した コースの単位と して算入可能		
												△ カルチュラルデザイン	2						
資格科目	スポーツ指導者基礎資格	2																資格科目	
	スポーツファーストレスポンス コーチング論	2					スポーツマネジメント	2					トレーニング論	2					
資格科目	スポーツ心理学	2					クラブマネジメント	2					身体と心	2				資格科目	
	文化遺産・博物館学芸員	2					スポーツ社会学	2					ボディデザイナー	2					
資格科目	文化遺産と文化財	2																資格科目	
	△ 自然環境と文化遺産	2					△ ユーラシアの世界遺産	2					博物館資料保存論	2					
資格科目	△ アジア文明史	2					△ アジアの世界遺産	2					博物館展示論	2				資格科目	
	△ メソポタミア文明 I	2					生涯学習概論	2					博物館教育論	2					
資格科目	△ メソポタミア文明 II	2					博物館概論	2					博物館情報・メディア論	2				資格科目	
	△ 西アジアの文化と歴史	2					博物館経営論	2					博物館実習1	2					
資格科目	日本語教員養成課程	1					博物館資料論	2					博物館実習2	1				資格科目	
	日本語教育概論 I	2																	
資格科目	日本語教育概論 IV	2					日本語教育概論 II	2					日本語教育概論 III	2				資格科目	
	日本語教育学 III	2					日本語教育学 I	2					日本語教育学 II	2					
資格科目	日本語教育法 II	2					日本語教育学 IV	2					日本語教育法 I	2				資格科目	
	日本語教育実習	1					日本語教育法 III	2					日本語教育法 IV	2					
資格科目	教職課程(社会・英語)	各2					△ 外国史概説(西洋)	2					△ 地誌学	2				資格科目	
	△ 英語文学とアジア	2					△ 外国史概説(東洋)	2					△ 政治学概論(国際政治を含む)	2					
資格科目	△ 英米文学	2					△ 人文地理概説	2					△ 宗教学概論	2				資格科目	
	△ 英語学 I・II	各2					△ 自然地理概説	2					△ 教職課題研究 I-IV	各2					
資格科目	△ 英語コミュニケーション I・II	各2																資格科目	
	△ 英語コミュニケーション III・IV	各2																	

C. 合計 78 単位以上

D. 自由選択枠 10 単位を含め 卒業所要単位 124 単位

2. 必修科目

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春期	秋期	春期	秋期	春期	秋期	春期	秋期
共通教育科目	国士館を知る							
	AIとサイエンス							
	コンピュータリテラシー							
外国語科目	基礎英語1	基礎英語2	実用〇〇語1	実用〇〇語2	応用〇〇語1	応用〇〇語2		
	基礎アジア語1	基礎アジア語2						
専門科目	基礎ゼミナール1	基礎ゼミナール2	基礎ゼミナール3	基礎ゼミナール4	21世紀アジア学演習1	21世紀アジア学演習2	21世紀アジア学演習3	21世紀アジア学演習4
			21世紀アジア学1	21世紀アジア学2			21世紀アジア学研究1	21世紀アジア学研究2
	課題研究1		課題研究2		課題研究3		課題研究4	
	キャリアデザイン1		キャリアデザイン2		キャリアデザイン3			
			海外研修1					
							日本の伝統科目(2科目)	

基礎ゼミナール3・4はプログラムや資格課程によって選択します

9月入学1年生

「基礎アジア語1・2」・「基礎ゼミナール1・2」を秋期に同時に履修します。

9月入学3年生

「21世紀アジア学演習1・2」を秋期に同時に履修します。

3. 履修上の注意

単位数の上限

半期に登録できる単位数は21単位までで、年間42単位までです。ただし、次の科目は42単位を超えて履修できますが、これらを足して1年間で取得できる単位数の上限は49単位（教職科目を除く）です。

- ・ 集中講義科目、特別課題研究、インターンシップ、ボランティアなど各自で取り組む科目
- ・ 教員免許状取得に必要な科目の中で卒業所用単位に含まれないもの

配当年次

自分の学年よりも、下級年次配当の授業科目は履修できますが、上級年次配当の授業科目は履修できません。また、各学年に同じ授業科目が複数配当されている場合、重複して履修することはできません。

既修得科目の履修

一度履修して既に単位を修得している授業科目を再び履修することはできません。

クラス指定

授業科目によってはクラスの指定（事前登録）があり、これを変更することはできません。再履修する授業科目と重なる、資格課程科目と重なるなど、やむを得ない理由でクラス変更が必要な場合は、学部事務課に相談してください。

先修条件

科目名に「1・2・3・4…」のアラビア数字がついている授業科目は、原則として数字の順に履修し、1つ前の数字の授業科目の単位を修得していないと次の授業科目に進むことはできません。

授業科目名に「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ…」のローマ数字がついている授業科目は、履修する順番が定められていません。

4. 共通教育科目

必修科目

国士館を知る（建学の精神と教育理念）

建学の精神や歴史、本学と関わりの深い人物と輩出された人材、地域社会や国際社会における本学の役割等について学びます。1年生の春期に必ず履修する半期2単位の必修科目です。

AIとサイエンス

体系化された「AI・データサイエンス教育プログラム」の基礎的な授業科目です。1年次に必ず履修します。

コンピュータリテラシー

コンピュータやモバイル機器等の情報端末を効率的に活用する基礎技術を身につけます。情報技術と社会との関連について学んでいく授業科目で、1年次に必ず履修します。

選択科目

スポーツ実習

スポーツの実技科目です。サッカー・バレーボール・テニス・バドミントン・スキーなどの種目の授業があります。春期と秋期に同じ種目を続けて履修します。1年間に履修できるのは1種目だけです。ただし、既に履修した種目でも、学年が変われば履修することができます。

下級学年に配当された科目は履修することはできません。また、不可となった授業科目を再履修することもできません。なお、春期に「スポーツ実習Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅶ」を履修していない場合、秋期から「スポーツ実習Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅷ」を履修することができます。

スキー

スキーは春期に授業がなく、秋期に週1回の授業が行われ、その後の春休み期間中にスキー場での実技・実習があります。秋期の授業が「スポーツ実習Ⅰ（またはⅢ・Ⅴ・Ⅶ）」、スキー場での実技・実習が「スポーツ実習Ⅱ（またはⅣ・Ⅵ・Ⅷ）」となります。

防災リーダー養成論・防災リーダー養成論実習

「防災リーダー養成論」は講義中心、「防災リーダー養成論実習」は集中形式の実習中心の授業です。両科目を同時に履修することを推奨します。

他キャンパス開講科目

世田谷・多摩キャンパスで開講される「共通教育科目」を履修登録することができます。ただし、町田キャンパスと他キャンパスの移動時間の関係から、履修が制約される場合があります。

国士館を語る（継承する精神文化の探究）

必修科目である「国士館を知る（建学の精神と教育理念）」の後継科目です。オムニバス形式とし、国士館を取り巻く歴史や文化、伝統等の内容を深掘りした授業を展開します。

副専攻科目

所属する学部の主専攻に加え、所定の要件を満たすと卒業時に副専攻の修了証が発行されます。また、副専攻の授業科目は、共通教育科目として卒業所要単位となります。



5. 外国語科目

1年次は、英語（必修）とアジア言語（選択必修）の2言語を履修し、その内の1言語については1年次から3年次まで続けて履修します。両方続けて学ぶこともできます。留学生は3年間、日本語を履修します。

先修条件

外国語科目は、「基礎」→「実用」→「応用」の順に学び、それぞれの数字の順に履修します。英語・日本語は同じ年度内であれば、春期の単位が修得できなくても秋期の授業を履修できます。しかし、その他の言語では、春期の単位を修得しないと秋期の授業を履修できません。どの言語も、その学年の授業科目の単位をすべて修得してからでないと、次の学年の授業には進めません。

1年次

英語（必修）とアジア言語（選択必修）の基礎的科目である2言語を履修します。春期に「基礎〇〇語1」、秋期に「基礎〇〇語2」を履修します。どちらも各3単位の必修科目です。アジア言語は1言語を選んで履修します。留学生は日本語を履修します。

2年次

英語または1年次に履修したアジア言語から1言語を選択し履修します。留学生は日本語を履修します。各3単位です。また、言語は両方を選択することも可能です。

3年次

1年次と2年次に続けて履修した1言語を3年次も履修します。各2単位です。

新たな言語

2年次以降、新たな言語を履修する場合は、学年に関わらず「基礎〇〇語1」から順に履修します。ただし、時間割上や受講者数、単位修得状況によっては履修が許可されない場合があります。

6. 専門科目：学部共通（必修科目）

21 世紀アジア学 1・2

21 世紀アジア学の基礎を学ぶ科目です。単位を修得しないと卒業できない必修科目です。2 年次の春期・秋期に指定されたクラスで履修します。

キャリアデザイン 1・2・3

自分の人生をどうやってデザインするかを学ぶ科目です。半期 2 単位の科目で、1 年次に「キャリアデザイン 1」、2 年次に「キャリアデザイン 2」、3 年次に「キャリアデザイン 3」を履修します。

基礎ゼミナール 1・2

半期 2 単位の必修科目で、クラス指定があります。1 年次の春期に「基礎ゼミナール 1」、秋期に「基礎ゼミナール 2」を履修します。

21 世紀アジア学演習 1・2・3・4

3 年次の春期に「21 世紀アジア学演習 1」、秋期に「21 世紀アジア学演習 2」、4 年次の春期に「21 世紀アジア学演習 3」、秋期に「21 世紀アジア学演習 4」を履修します。各半期 2 単位の科目です。

「21 世紀アジア学演習 1～4」のクラスは自分で選び、原則として同じゼミで受講します。申し込みは 2 年次の秋期に行います。ただし、各ゼミには定員が設けられていますので抽選になる場合もあります。

課題研究 1・2・3・4

各学年ごとに指定された課題を行います。課題の内容は manaba 等に掲載されます。

海外研修 1

海外で学習する科目です。3年次・4年次は就職活動や卒業研究があるため、2年次の春休みまでに行うことを推奨します。研修は原則として90時間以上の学習で、語学研修、スポーツ研修、インターンシップ・ボランティア研修、日本研修（留学生のみ）等があります。文部科学省からの通達により休学中に実施した研修も単位に認定されます。また、研修には学部や大学の機関が実施するものに参加しても良いですし、外部の機関等が実施する研修に参加することもできます。

① 語学研修

学部が実施する研修

夏休み・春休みに開催されます。原則として、選択している言語の国・地域で学習や活動を行います。言語（国・地域）別の研修先及び費用等は、事前の説明会でお知らせします。

国際交流センターが実施する研修

国際交流センターでも、カナダ・アメリカ・中国・韓国・オーストラリアなどでの海外研修を実施しています。

② スポーツ研修

主にスポーツアジアプログラムを選択している学生向けの研修です。海外で試合やトレーニングなどを行います。

③ インターンシップ・ボランティア研修

海外の企業でインターンシップを行ったり、学校建設・井戸掘りなどのボランティア活動を行います。

④ 日本研修（留学生のみ）

学部が実施する日本研修や外部の機関等が実施する研修に参加して、日本の伝統や文化に触れて学びます。

外部の機関等が実施する研修

各自で外部機関等が実施する研修等に参加して単位認定を受けることも可能です。研修を実施する場所や内容・期間が妥当であるかどうか事前に確認する必要がありますので、担当教員もしくは13号館1階の語学準備室に相談してください。

21 世紀アジア学研究 1・2 (卒業研究)

「21 世紀アジア学演習 1~4」の教員が指導教員となります。段階的に指導を受けながら卒業研究を進め、完成した卒業研究を指定された期間に提出します。また、提出された卒業研究について口頭試問が行われます。口頭試問を受けて合格すると単位を修得できます。卒業研究には次の 3 つの形式があります。

① 論文

決めたテーマについて調査・分析・考察を行い、その成果を論文としてまとめるものです。

- ・ 10,000 字~20,000 字（指導教員の指示に従う）を標準とし、書式は各ゼミで定められたもの。
- ・ 電子データで入力したものを A4 判用紙に印字して提出。

② 活動報告書（学外活動や調査等に基づくレポート）

何らかの活動に参加して得られた成果や、一つの事柄について綿密な調査を行って得られた成果を報告するものです。

- ・ 関連資料及び 2,000 字~4,000 字（指導教員の指示に従う）程度の「活動報告書」を提出。
- ・ 電子データで入力したものを A4 判用紙に印字して提出。

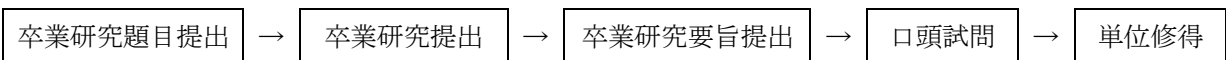
③ 卒業制作

絵画・彫刻・衣装・写真・映像・ソフトなど、何らかの作品を制作するものです。

- ・ 作品及び 2,000 字~4,000 字（指導教員の指示に従う）程度の「作品の概要書」を提出。
- ・ 「作品の概要書」はパソコン入力したものを A4 判用紙に印字して提出。

*印字は片面のみとします（表裏両面印字不可）。

単位修得までの流れ



卒業研究提出

提出は、指定された期間以外は提出できません。代理人の提出も認めますが、代理人が期限内に合わなかった場合でも本人の責任となります。当日、不測の事態によって提出できない場合は、必ず提出期限より前に指導教員に連絡してください。

卒業研究要旨

「卒業研究要旨」はできるだけ 1 枚にまとめた目次と、できるだけ 1 枚にまとめた 800 字程度の論文要旨からなります。学籍番号・氏名を記載します。

電子入力したものを A4 判用紙に印字し、同じものを 4 部作成してゼミ担当教員へ提出します。裏表印刷で 1 枚にしてもかまいません。

口頭試問

提出された卒業研究に対して、教員による口頭試問を行います。口頭試問を受けて合格しないと「21 世紀アジア学研究 2」の単位を修得することはできません。

当日、病気や事故などで口頭試問が受けられなくなった場合は、必ず自分の口頭試問開始時刻より前に指導教員に連絡してください。

7. 専門科目：学部共通（選択科目）

(1) 学部共通選択必修科目（日本の伝統科目）

すべて半期開講の1単位の科目です。日本の伝統科目の内に、2科目以上を選択し履修します。茶道と華道の履修に必要な実習教材費を納入します。茶道（半期4,000円）、華道（半期6,000円）を購入します。購入は「Kaede-i」トップの「証明書・申請書オンライン申請」から行います。

(2) 学部共通選択科目

学部共通選択科目は自分の選択したコースの卒業所要単位として換算されます。また、下記の科目は、半期の履修登録単位数の上限21単位には含まれませんが、年間で修得できる単位数49単位を越えることはできません。

インターンシップ 1-4

大学在籍中に企業や団体などで業務を体験しながら、組織の仕組みや業務の実情などを学んでいくことをインターンシップといいます。国内だけでなく、海外でもインターンシップを行うことができます。インターンシップを行って日誌とレポートの提出をすることにより、単位を修得することができます。90時間程度で2単位が認定されます。インターンシップを希望される人は、受け入れ先の企業や団体を探し、担当教員か13号館1階の語学準備室で相談をしてください。

ボランティア 1-4

原則として90時間以上のボランティア活動を行い、日誌とレポートを提出することにより、単位を修得することができます（ボランティア1-4・各2単位）。国内だけでなく海外でもボランティアを希望する人は、受け入れ先の団体探しを含め、担当教員か13号館1階の語学準備室で相談をしてください。

特別研究 1-4

「特別研究」を履修することで、在籍したまま学外での研修等ができます。研修期間を含めて4年間での卒業が可能です。留学や長期のインターンシップ・ボランティアなど、学外で学ぶアウト・オブ・キャンパス型の授業科目です。1科目10単位で専門選択科目として卒業所要単位となります。海外の大学で学ぶ場合には、「グローバルスタディプログラム」や国土館大学の交換留学制度との併用が可能です。

特別課題研究 1-5

特定の研究テーマを深める、資格検定に挑戦するなど、自分の定めた課題に取り組む授業科目です。4年間に5課題まで取り組むことが可能です。1年間に複数の課題に取り組むこともでき、同じ課題に複数回取り組むこともできます。一部の科目を除いて、履修登録は必要ありません。「特別課題研究」には次のようなものがあります。

資格の取得や語学の検定試験で高いレベルの級やスコアを獲得したり、各種の公的な資格を取得したりした際に、証明となる書類（合格証、スコア証明書、資格証など）を提示してください。語学の検定は級やスコアによっては認定されないこともありますので、年度ごとに掲示等で周知される内容を確認してください。また、記載のないものでも認定される場合がありますので、事前に語学準備室（13号館1階）に相談してください。

自ら設定した課題。資格の取得以外でも、自らが課題を設定してその学習・研修を進めることによって、単位を修得できます。この課題に取り組む場合は、事前にその課題・活動内容についての承認を受けてください。

(3) コース別選択科目

3つのコースに分かれており、選択科目から44単位以上履修します。このうち自分の選んだコースの科目から20単位以上履修します。学部共通選択科目、資格課程科目は自分の選択したコースの単位に算入されます。

2年次の春期履修登録の際にコースを選びます。自分の選んだコースの授業科目しか履修できないわけではありません。1年次から一部の授業科目が履修可能で、その場合の修得単位は、2年次のコース決定時にコース別の授業科目として算入されます。

3年次の春期履修登録の際にコースを変更することができますが、原則としてその後の変更はできません。

(4) 履修者が決まっている科目

原則として各資格課程・プログラムを受講している人しか履修できない科目があります。

日本語教員養成課程を受講している人

日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／日本語教育学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／日本語教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／日本語教育実習

スポーツアジアプログラムを選択している人

アスリート実習1・2・3・4

文化遺産プログラムを選択している人

博物館実習1

学芸員課程を選択している人

博物館実習1・2

教職課程を選択している人

教育基礎論／道徳教育の理論と実践／特別活動の理論と実践／教職論／教育心理学／社会科・地歴科教育論／社会科・公民科教育論／英語科教育論Ⅰ・Ⅱ／生徒・進路指導論／総合的な学習の時間の指導法／教育行財政／教育課程論／社会科指導法Ⅰ・Ⅱ／地理歴史科指導法／公民科指導法／英語科指導法Ⅰ・Ⅱ／教育方法論／教育相談／中等教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／教職実践演習／特別支援教育概論／防災と教育(情報通信技術の活用を含む)1・2・3

教職課程・学校図書館司書教諭課程を選択している人

学校経営と学校図書館／学校図書館メディアの構成／学習指導と学校図書館／読書と豊かな人間性／情報メディアの活用

8. 自由選択枠

自由選択枠とは、各科目区分で必ず履修しなければならない単位数を超えて修得した単位を集計したものです。卒業に必要な124単位のうち10単位は自由選択枠として設定されています。

ただし次の科目は、共通教育科目の自由選択枠の単位としてのみ扱われます。

- ・ 「ボランティア実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各1単位)
- ・ 「首都圏西部単位互換科目」(単位数は授業科目によって異なります)

特色あるプログラム・資格課程

1. グローバルスタディプログラム
2. 文化遺産プログラム
3. 学芸員課程
4. スポーツアジアプログラム
5. 日本語教員養成課程
6. 教職課程
7. その他

1. グローバルスタディプログラム

留学のすすめ

このプログラムは、他のプログラムや資格課程と並行して選択することができます。学部在籍するすべての人が選ぶことができる、海外での経験を得られる体験型プログラムです。

みなさんは、ギャップイヤーをご存じですか？ 実際に社会に出る前に、自分は、本当にどんな職業に就きたいのかを、別の環境に自分を置いて少しゆっくりと考えてみる。例えば、ワーキングホリデーを活用して英語を身につけながら海外で働く、また海外で日本語教師として働くなど、社会に出る前に、将来の進路をしっかりと考えます。グローバルスタディプログラムは、こうして現地で学んだことを単位認定します。

履歴書に書ける大きな武器・自信・世界中の友人を手に入れる

海外での経験を積み重ねることが良いことはいくつもありますが、まずは語学力です。みなさんが、就職や進学をする際に、とても大きな力を発揮してくれます。

次に自信です。最初は怖いかもかもしれませんが、それを乗り越えた先には、大きな自信を得るでしょう。自分に自信が持てることを手に入れる。

そして、世界中の友達を手に入れます。海外に行きますと、世界中から集まる多くの人々に出会うことができます。これは海外留学を終えた後も続き、貴重な財産となります。

この学生時代の海外での経験は、就職の時だけではなく、みなさんの将来にとっても明るい結果をもたらしてくれるでしょう。とても楽しい人生が待っています。

期間と方法

期間は、行き先、やりたいことにより異なりますが、1年くらい行かれる人が多いです。その他、半年だけという方や、長い人は2年くらい現地で、海外経験を積んでいます。

現地で学校に通いながら語学力を伸ばす、ワーキングホリデーを活用して企業等で働くインターンシップ、学校建設などをサポートする国際ボランティアなど、いくつもの方法があります。

まずは、こんなことがしたいということをご相談ください。そして、現地での学習計画を一緒に設計しましょう。これに限りませんが、具体的には次のようなプランでよく出かけています。

- ・ **韓国語を徹底的に身につけたかった人**
交換留学で1年間韓国に留学
- ・ **働きながら留学費用を節約して英語を身につける**
フィリピンで3ヶ月間英語の基礎力をつけてその後オーストラリアでワーキングホリデー
- ・ **バリ島でインドネシア語を身につけながらホテルで働く**
前半は語学学校で学び後半はホテルでホスピタリティ力を身につける
- ・ **台湾で野球を教えながら中国語を身につける**
台湾の中学生の野球コーチをしながら大学の語学学校に通って中国語を身につける

2. 文化遺産プログラム

文化遺産、文化財全般、西アジアの古代文明を中心に考古学、世界各地の世界遺産の保存、活用などが学べるプログラムです。1年生から4年生まで「文化遺産プログラム」のゼミに所属して専門の教員から指導を受けるとともに、文化遺産関係の授業科目を多く履修します。

教職課程や学芸員課程も同時に履修可能です。関連科目を履修して、学んだことを将来活かしていけるようにしてください。また、「学芸員となる資格」（国家資格）は卒業所要単位内で取得できますので、併せて履修することを推奨します。

受講したい人は1年次の4月に申し込み（受講登録）をする必要があります。

科目(必修)	学年	科目(選択)	学年
基礎ゼミナール1	1	文化遺産と文化財	1～4
基礎ゼミナール2	1	自然遺産と文化遺産	1～4
基礎ゼミナール3*	2	アジア文明史	1～4
基礎ゼミナール4*	2	メソポタミア文明Ⅰ	1～4
21世紀アジア学演習1	3	メソポタミア文明Ⅱ	1～4
21世紀アジア学演習2	3	西アジアの文化と歴史	1～4
21世紀アジア学演習3	4	ユーラシアの世界遺産	1～4
21世紀アジア学演習4	4	アジアの世界遺産	1～4

*選択科目

3. 学芸員課程

博物館などで専門的な知識を持った職員として働くための「学芸員となる資格」（国家資格）を得ることができます。資格を得るためには学芸員課程のすべての科目を履修する必要があります。なお、表の授業科目はすべて卒業所要単位として認められます。したがって、すべての単位が修得できずに資格が取れない場合であっても、修得した単位は卒業所要単位に含めることができます。また、この資格を活かすためには文化遺産関係の授業科目を幅広く履修して専門知識を高める必要があります。したがって、なるべくなら文化遺産プログラムを選択することを推奨します。

「博物館実習1」は学内で、「博物館実習2」は実際に博物館で1～2週間程度の実習が必要です。「博物館実習2」を履修するには、別途実習費（15,000円）が必要となりますので、履修登録の際に実習費を納入してください。また実習を受ける前年度末（12月頃）からガイダンスがありますので、必ず参加してください。参加しないと博物館での実習は受けられません。原則「博物館実習2」はこの課程の修了が見込める3・4年次に履修してください。

科目	学年	科目	学年
生涯学習概論	1～4	博物館展示論	2～3
博物館概論	1～4	博物館教育論	2～3
博物館資料論	2～3	博物館情報・メディア論	2～3
博物館資料保存論	2～3	博物館実習1	2～3
博物館経営論	2～3	博物館実習2	3～4

- ・ 10科目 19単位(博物館実習2のみ1単位)
- ・ 博物館実習1は文化遺産プログラムか学芸員課程を選択している人のみが履修できます
- ・ 博物館実習2は学芸員課程を選択している人のみが履修できます

4. スポーツアジアプログラム

大学のスポーツクラブで現役として活躍する学生で、卒業後はスポーツに関わる企業等へ就職し、高齢化社会における高齢者の運動能力維持、あるいは子どもの体力・スポーツ能力を伸ばすことに貢献できる人材育成を目指すプログラムです。

勉強とスポーツの両立がはかれるよう時間割などに配慮がなされます。カリキュラムの中にスポーツ関連の授業科目が用意されており、スポーツという観点からアジアへの理解を深めていくことが可能です。

科目	学年	科目	学年
スポーツファーストレスポonder	1~4	身体と心	2~4
スポーツマネジメント	2~4	スポーツ心理学	2~4
トレーニング論	2~4	スポーツ社会学	2~4
コーチング論	2~4	ボディデザイナー	2~4
クラブマネジメント	2~4		

- ・ 「基礎ゼミナール1・2」：プログラムクラスでの履修となります
- ・ 「特別研究1」：クラブや部の活動を記録した者で申請することができます
- ・ 「アスリート実習1・2・3・4」はスポーツアジアプログラムを選択者のみ履修できます
- ・ 海外研修はスポーツアジアプログラム向けの研修を選択することができます

対象クラブ

原則として次のスポーツ競技会指定クラブに所属していることがプログラム履修条件です。

《特別強化クラブ》

柔道部・サッカー部（男子）・陸上競技部・陸上競技部（駅伝男子）・レスリング部・硬式野球部・剣道部

《新特別強化クラブ》

陸上競技部（駅伝女子）・ハンドボール部（男子）・新体操部（女子）・空手道部・バレーボール部（女子）・体操競技部（女子）・バスケットボール部（男子）・アメリカンフットボール部・アーティスティックスイミング部

《強化クラブ》

ハンドボール部（女子）・新体操部（男子）・ソフトボール部・水泳部・水泳部（水球女子）・準硬式野球部・バレーボール部（男子）・体操競技部（男子）・ラグビー部・サッカー部（女子）

《クラブ》

バスケットボール部（女子）・スキー部・相撲部・ウェイトリフティング部・スケート部（ホッケー・スピード・フィギュア）

退部等

年度途中において所属しているクラブを退部した場合は、本プログラムを変更しなければならない場合がありますので、学部事務課に申し出てください。

5. 日本語教員養成課程

21世紀アジア学部には、日本語を第2言語として学ぶ人に対する語学教育に従事する教員の養成を目的として、日本語教員養成課程が設置されています。この課程の所定の授業科目の単位を修得すれば、本学独自の「国士舘大学日本語教員養成課程修了証」が授与されます（注1）。所定の授業科目は専門科目の資格科目に配置されており、これらの授業科目を履修して修得した単位は卒業所要単位に含まれます。

この課程では1年次から履修を始め、3年次の「日本語教育実習」で履修を完了するようになっています。「日本語教育実習」を履修するには別途実習費（21,000円）が必要となります。実習を開始する年度の始めに実習費を納入してください（納入期限は授業内で指示を出します）。

2年次以降に履修を始めた場合や所定の授業科目について1・2年次に修得した単位が少ない場合は、「日本語教育実習」が4年次になったり、卒業までに「日本語教育実習」を行えなかったりすることがあります。

日本語教員養成課程履修希望者及び履修者に対する説明会が、4月のオリエンテーション・ガイダンス時に行われますので、必ず出席してください。説明会に出席しないと、この課程の履修ができなくなったり、「日本語教育実習」が行えなくなったりすることがあります。履修者はmanaba等からの連絡事項を必ず確認してください。

注1：令和6(2024)年4月1日から、国家資格としての「登録日本語教員」の制度が開始されました。この資格を得るためには、「日本語教員試験（基礎試験）」と「日本語教員試験（応用試験）」の合格、定められた機関での「実践研修」の修了が必要ですが、国士舘大学の日本語教員養成課程の修了者には、「日本語教員試験（基礎試験）」と「実践研修」の免除措置が適用されます（令和6年4月1日から令和15年3月31日までの措置）。したがって、今年度入学の学生は、「日本語教員試験（応用試験）」の合格のみで「登録日本語教員」の資格が得られます。なお、受験資格には一定の条件が加わりますので、受験希望者は本課程の担当教員に必ず相談してください。

日本語教員養成課程科目

日本語教員養成課程履修者は、次の表に従って所定の授業科目を履修してください。先修条件がある授業科目については、各学年の説明会に出席し確認してください。

		令和元（2019）年度以降入学生適用	
科目	学年	科目	学年
日本語教育概論Ⅰ	1	日本語教育法Ⅰ	2
日本語教育概論Ⅱ	1	日本語教育法Ⅱ	2
日本語教育概論Ⅲ	1	日本語教育法Ⅲ	2
日本語教育概論Ⅳ	1	日本語教育法Ⅳ	2
日本語教育学Ⅰ	1	日本語教育実習	3
日本語教育学Ⅱ	1	21世紀アジア学演習1	3
日本語教育学Ⅲ	2	21世紀アジア学演習2	3
日本語教育学Ⅳ	2		

- ・ 15科目・29単位（日本語教育実習のみ1単位）
- ・ 21世紀アジア学演習1・2は日本語教員養成関係のゼミを履修
- ・ ここにある「21世紀アジア学演習1・2」以外の科目は日本語教員養成課程を選択している人しか履修できません

6. 教職課程

21世紀アジア学部には以下の教員免許状を取得するための教職課程が設けられています。教職課程を履修するためには、説明会に出席して登録申請を行い、受講料を納入したうえで履修登録を行います。履修開始後は、「教職課程履修要項」ならびに「21世紀アジア学部教職課程内規」に定められた継続基準を満たしながら進級し、所定の単位を修得しなければなりません。

なお、教職課程を登録すると、卒業所要単位に含まれない授業科目を数多く履修することになります。また、受講料以外に教育実習費・介護体験費用等が必要になります。教職課程の履修条件などを説明会でよく聞き、よく考えたうえで履修する必要があります。

- ・ 中学校教諭一種（社会）
- ・ 中学校教諭一種（英語）
- ・ 高等学校教諭一種（地理歴史）
- ・ 高等学校教諭一種（公民）
- ・ 高等学校教諭一種（英語）

原則として、1年次より学年ごとに定められた授業科目を履修していきます。2年次以降から教職課程を履修することも可能ですが、その場合は卒業と同時に免許状を取得することができなくなる可能性が高くなります。確実に卒業と同時に免許状を取得するためには、必ず1年次より履修を始めてください。

1年次より教職課程の履修を始めるためには、オリエンテーション・ガイダンス期間中に行われる教職課程に関する2回の説明会（①内容の説明会、②登録申請の説明会）に出席し、履修申請書の提出、受講料の支払い等の所定の手続きをしなければなりません。両方の説明会に出席しなければ、1年次からの履修はできなくなります。また、教職課程の履修を開始すると、年度の途中の説明会や教職課程関連行事に出席する必要があります。

2年次以降も継続して教職課程を履修したい場合は、「21世紀アジア学部教職課程内規」に明記された履修継続に関する基準を満たす必要があります。基準を満たさない場合は次年度の教職課程履修はできなくなり、卒業と同時の免許状の取得が困難になります。基準の詳細については、オリエンテーション・ガイダンス期間中の説明会で説明します。

なお、教職課程に関する諸手続き・伝達事項は、原則としてmanabaと掲示板でお知らせしますので、各自で随時確認してください。

また、教職課程に設けられた学校図書館司書教諭科目（5科目10単位）を修得することで、以下の資格を取得することができます。なお、これらの科目は2年次以降に履修できるようになります。

- ・ 学校図書館司書教諭

下記の授業科目は、原則として各資格課程・プログラムを受講している人しか履修できません。
プログラムへの参加申し込みは毎年ガイダンス期間に行います。

コース	授業科目名		履修要件
教職科目 (卒業所要単位と して算出しない)	教育基礎論	社会科・地歴科教育論	教職課程の受講者
	道徳教育の理論と実践	社会科・公民科教育論	
特別活動の理論と実践	英語科教育論Ⅰ・Ⅱ		
教職論	社会科指導法Ⅰ・Ⅱ		
教育行財政	地理歴史科指導法		
教育心理学	公民科指導法		
特別支援教育概論	英語科指導法Ⅰ・Ⅱ		
教育課程論	中等教育実習Ⅰ(事前指導)		
総合的な学習の時間の指導法	中等教育実習Ⅱ(事後指導 を含む)		
教育方法論 (情報通信技術の活用を含む)	中等教育実習Ⅲ(事後指導 を含む)		
生徒・進路指導論	教職実践演習		
教育相談			
防災と教育			
	学校経営と学校図書館	読書と豊かな人間性	教職課程、学校図書館 司書教諭課程の受講者
	学校図書館メディアの構成	情報メディアの活用	
	学習指導と学校図書館		
専門科目	教職課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	教職課題研究Ⅳ	教職課程の受講者は Ⅰ～Ⅲが必修となる

7. その他

他学部履修

自分が在籍する学部ではない他学部・他学科の授業科目を履修することです。履修登録期間中に 21 世紀アジア学部事務課へ申込書を提出してください。

単位数は学部の定める履修登録単位数の上限に含みます。また、卒業所要単位として算入されますが、どうしても本学部にそぐわない授業科目の場合は随意科目（卒業所要単位として算入しない）となります。

他大学の科目を履修する

首都圏西部大学単位互換

本制度に加盟する他大学の科目を履修することができ、修得した単位を所属大学の単位として認定する制度です。



世田谷 6 大学コンソーシアム連携授業

各大学の特色ある授業を協定大学が相互に提供し、教育・研究の交流による自己啓発と教育の質向上に資することを目的としています。詳細は、QR コードから。

大学院グローバルアジア研究科 候補生

大学院入学後 1 年で修士修了を目指すのが候補生です（通常 2 年）。学部 4 年次から大学院の授業を履修します。学部 3 年次修了前に選考試験がありますので、それを受験してください。

候補生は学部 4 年次に大学院 1 年生の授業科目を 10 単位まで履修することができます。その後、大学院の入学試験に合格し、翌年 1 年間で修了単位を修得、修士論文を完成し、論文審査に合格すると最短で 1 年で修士号を取得できます。出願資格、選考方法等詳細につきましては大学院グローバルアジア研究科までお問い合わせください。

学生生活

1. 専任教員
2. 学籍番号と学生証
3. 学生ポータルサイト等
4. 奨学生制度と融資
5. 各種届出と証明書・学割
6. 学籍
7. 転部

1. 専任教員

みなさんの学びをサポートしてくれるたくさんの専任教員がいます。困ったことがあれば、優しく相談に乗ってくれますので、訪問してみるのが良いでしょう。

オフィス・アワー

オフィス・アワーは専任教員が毎週特定の時間に研究室を開放し、学生の質問や相談を受け付ける制度です。学修に関するだけでなく、履修相談、単位修得、資格、将来や学生生活全般に関する質問・相談に対応します。また、事前にメールなどでアポイントを取っておくのも良いでしょう。

教員名	メールアドレス	研究室
長田 哲男	osadat@kokushikan.ac.jp	4F 3003
表 きよし	omote@kokushikan.ac.jp	5F 3016
R. カイム	kaim@kokushikan.ac.jp	4F 3001
梶原 彩子	ayakok@kokushikan.ac.jp	5F 3020
河先 俊子	kawasakt@kokushikan.ac.jp	5F 3023
栗原 通世	kurihara@kokushikan.ac.jp	5F 3021
クルカルニ マンダル	mandar@kokushikan.ac.jp	4F 3002
桑田 てるみ	tkuwata@kokushikan.ac.jp	4F 3010
河野 正	tadashik@kokushikan.ac.jp	4F 3005
榊原 一也	ksakakib@kokushikan.ac.jp	4F 3012
佐藤 研一	ksatoh@kokushikan.ac.jp	4F 3006
申 景浩	shin@kokushikan.ac.jp	4F 3007
ジャクファル・イドルス	jakfar@kokushikan.ac.jp	4F 3011
鈴木 敦子	suzukia@kokushikan.ac.jp	5F 3024
鈴木 慎也	shinya.s@kokushikan.ac.jp	4F 3008
高橋 伸子	ntakahas@kokushikan.ac.jp	5F 3022
陳 慧	chen@kokushikan.ac.jp	5F 3019
常木 麻衣	mtsuneki@kokushikan.ac.jp	5F 3018
土佐 昌樹	tosa@kokushikan.ac.jp	5F 3015
中山 雅之	nakamasa@kokushikan.ac.jp	4F 3009
濱田 英作	eyhamada@kokushikan.ac.jp	5F 3013
福 博充	hiromitsuf@kokushikan.ac.jp	5F 3014
山田 尚史	yamadah@kokushikan.ac.jp	4F 3004

2. 学籍番号と学生証

学籍番号は原則として在学期間を通じて変わりません。また、同一の学籍番号は存在しません。学生証は身分を証明するものであり、常に携帯するようにしてください。授業の出席確認、試験時の本人確認、各種証明書・学割証の発行、図書館の利用、通学定期券を購入する場合などに使用します。

学生証の本人以外の使用は認められていません。他人に貸したり、授業時に他人の学生証で出席確認をすることは処罰の対象になります。

また、学生証とともに配付される「在籍確認シール」は、必要事項を記入し、通学定期購入時に使用します。

学生証を紛失した場合、「証明書発行サービス」よりウェブ申請し、手数料3,100円を納入してください。再発行を申請した学生証は、10日後に教務課窓口で受領をしてください。

3. 学生ポータルサイト等

学生ポータルサイト 「Kaede-i」



大学からのお知らせ、時間割・休講情報・補講情報などの確認および、学生情報の変更等ができます。また、個人のメールアドレスを登録することで、お知らせや休講情報等をメールで受信できます。(メールの受信にかかる通信料は個人負担)

メールアドレスの登録は、「Kaede-i」からできます。メールアドレスを入力後、「通知を受け取る」を選択し、「登録」ボタンをクリックしてください。

講義支援システム 「manaba」

履修した授業科目ごとのコースにて、ディスカッションや資料の受け渡し、課題の提出等を行います。その他、修学に必要な情報等は、原則としてmanabaを通して発信されますので、確認するようにしてください。

各種様式のダウンロード

公欠願いなどの各種様式は大学HPからダウンロードできます。
大学ホームページ > 21世紀アジア学部 > 学部生の方へ



証明書・納入票の発行

各種証明書・納入票の発行については大学HP、各種実習費等については学部の掲示板を確認してください。



学費

学費については大学ウェブサイトで確認できます。



4. 奨学生制度と融資

奨学生制度

学業優秀奨学生（留学生を除く）

本学に1年以上継続して在学する者で学業成績が優秀な者から選考します。（学生・厚生課）

修学援助奨学生（留学生を除く）

家計支援者が死亡または後遺障害その他事由により、納入金の支払いが困難と認められた者とし、その事由が入学手続後に生じた者の中から選考されます。（学生・厚生課）

留学生奨学生（給付制）

留学生で、学業及び人格が優れていて、経済状況も鑑み選考されます。（国際交流センター）

日本学生支援機構奨学制度

日本学生支援機構が行っている、最も一般的でかつ規模の大きい奨学金制度です。4月に募集説明会を行います。（学生・厚生課）

地方公共団体・民間育英団体・その他の奨学金

各出身地の地方公共団体、その他民間育英団体などでも奨学金制度を設けています。

融資

国土館提携教育ローン

都市銀行と提携し、国土館提携教育ローンを取り扱っています。

国の教育ローン

教育のために必要な資金を融資する公的な制度です。

国土館大学教育後援会

後援会でも奨学制度を設けています。



5. 各種届出と証明書・学割

変更事項・届出内容	方 法
学生・保証人・学費納入者の連絡先の変更	「Kaede-i」から
学生の氏名と本籍地・保証人の氏名と続柄の変更	H P → 在学生の方 → 各種証明書・届出 → 個人情報変更の届出
自転車・オートバイで通学する場合	13号館1階 学生・厚生課へ 自動車での通学は禁止されています
進路（進学・就職等）届	12号館1階 キャリア形成支援センターへ

通学定期券

定期券を発売している駅で申請し、学生証と裏面に貼り付けた「在籍確認シール」を提示してください。「在籍確認シール」は、新入生ガイダンス時に1人1枚配付しています。記入欄が足りなくなった場合は学部事務課へ申し出てください。

履修の関係で他のキャンパスに通学する場合で（クラブ・課外活動は除く）、学生証記載の大学所在地のままでは必要な区間の通学定期券が購入できないときは、教務課にある「通学キャンパスの証明」用紙に必要事項を記入し、学部事務課で印を受け、教務課で「学生住所・通学区間証明書」に証明印を受けてください。

学割

学割証発行機（メイプルホール1階）に学生証を通し、画面の指示に従って必要枚数を入力することにより発行されます（JR線片道101キロ以上の切符購入時）。

6. 学籍

休学

病気やその他の理由により、1か月以上にわたり欠席する場合は、休学することができます。休学できる期間は学期末または学年末までですが、引き続き半年または1年延長することができます。

休学期間は在学年数に含まれません。また休学する場合でも、休学が許可された時期に応じて一定の学費を納入しなければなりません。

復学

休学者は休学期間が満了する次の期に復学することができます。休学時の学年に復学します。

退学

何らかの理由で退学しようとするときは、保証人と連署の上、理由を付して退学願を提出し、退学が許可された時期に応じて一定の学費を納入しなければなりません。学費が納入されない場合には退学ではなく除籍となります。

再入学

退学または未納除籍となってもそれまでに修得した単位は有効であり、再入学が許可されれば退学または未納除籍した時の学年に戻ることができます。再入学できる時期は入学した学年の始めとなります。再入学する時には、再入学する年度の入学金と該当する学年の学費を納入する必要があります。

除籍

除籍となるのは、(1)在学年限が8年を超えた者、(2)休学期間を超えた者、(3)正当な理由がなく無届で3か月以上連続して欠席した者、(4)正当な理由がなく所定の期日までに学費等定められた納入金を納入しない者、のいずれかに該当する場合です。

復籍

復籍が許可された場合、未納学費がある場合は所定の納入期日までに納入する必要があります。復籍の日付は除籍の日付の翌日となります。

除籍された日から2か月以上経過して復籍願が提出された場合には、再入学の扱いとなります。

「国士舘大学学則」第20条・「国士舘大学学籍管理規程」第9条・「国士舘大学納入金規程」第11条参照

7. 転部

他学部への転部は試験を受けて合格することで行うことができます。修得した単位すべてが転部先学部で卒業所要単位として認められるとは限りません。また、転部が認められても、転部した学部の必修科目は修得する必要がありますので、4年間で卒業できないこともあります。

1月頃に在籍学部窓口で、転部要項を得て、2月に転部希望学部窓口へ必要書類を提出します(検定料35,000円)。試験は3月に実施されます。

キャンパスマップ

1. 町田キャンパス
2. 30号館
3. 14・13号館・メイプルホール
4. 12号館
5. 11号館
6. 世田谷キャンパス
7. 多摩キャンパス
8. 学内連絡先

1. 町田キャンパス

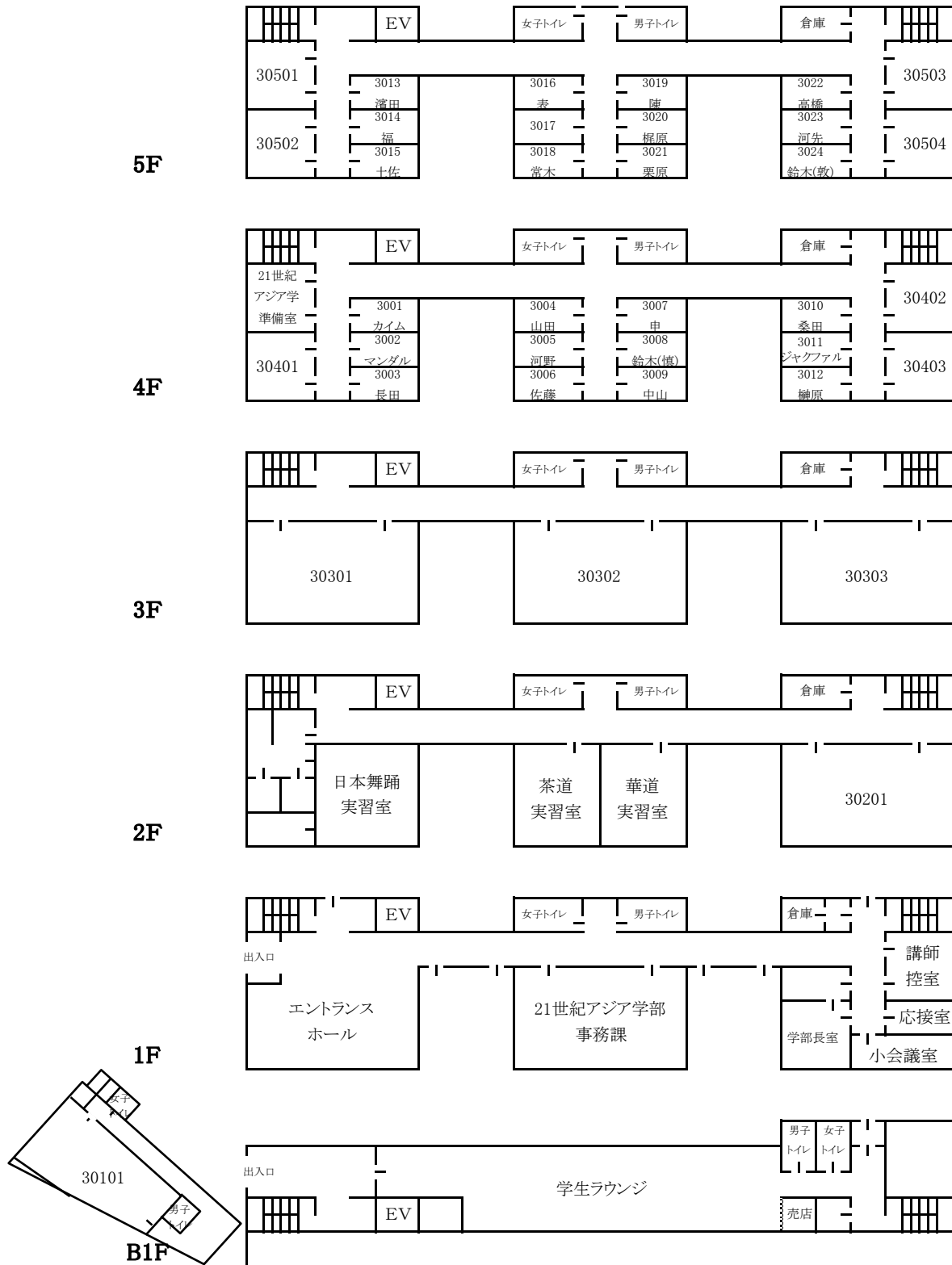
〒195-8550 東京都町田市広袴 1-1-1

21世紀アジア学部事務課 042-736-1050

- ・ 小田急線「鶴川」駅下車し「鶴川団地行」バスで「国士館大学前」下車
- ・ 鶴川駅前～町田キャンパス間のスクールバス（無料）



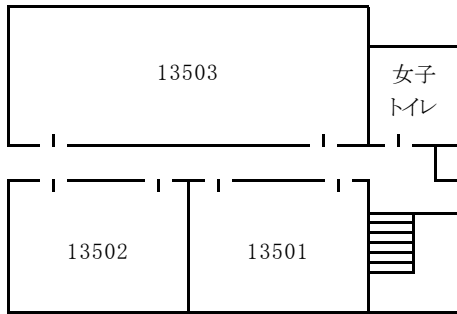
2. 30号館



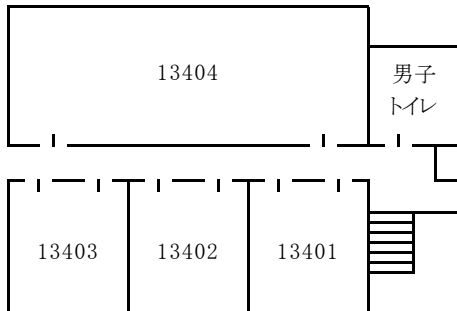
3. 14・13号館・メイプルホール

13号館

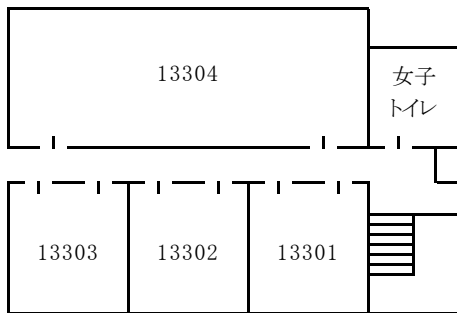
5F



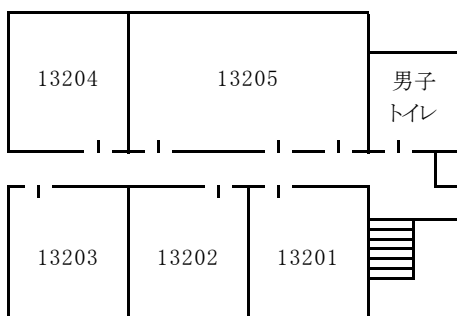
4F



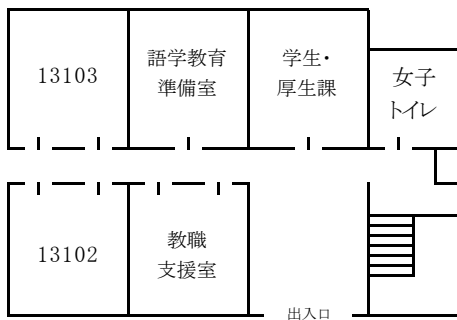
3F



2F

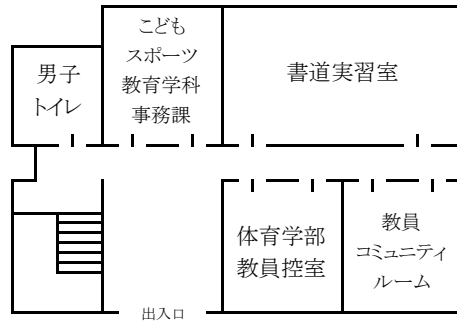


1F

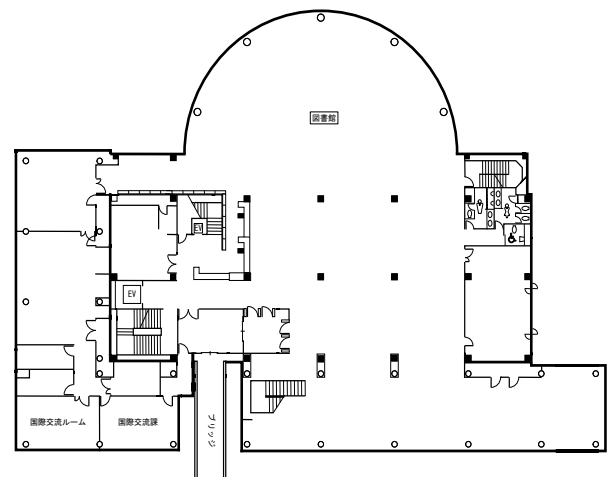
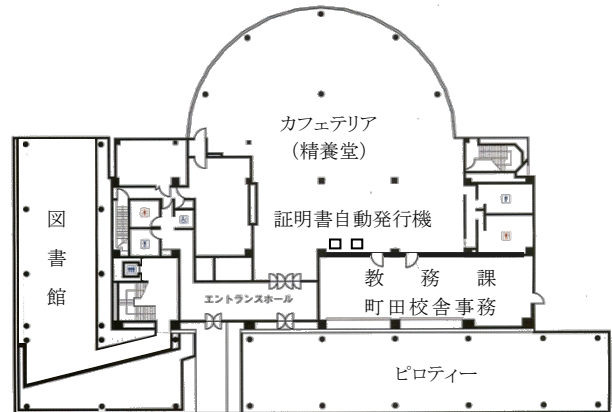


14号館

1F



メイプルホール



4. 12号館

6F	613 イラク研 研究員	614 イラク研 研究員	615 研究室	616 イラク研 資料室	617 イラク研 研究員	618 イラク研 事務室	階段	給湯	619 イラク研 資料室	620 イラク研 研究員	621 教務課	622 応接室	623 イラク研 資料室	624 イラク研 資料室	EV 出入口
	612 イラク研 資料室	611 イラク研 資料室	610 イラク研 資料室	609 研究室	608 研究室 小口	607 研究室	男子トイレ	606 研究室 保存科学 実習作業室	605 研究室 保存科学 実習作業室	604 研究室	603 研究室	602 研究室	601 研究室		

5F	513	514	515	516	517	518	階段	給湯	519	520	521	522	523	EV 出入口
	512	511	510	509	508	507	女子トイレ	506	505	504	503	502	501	

4F	413 グローバルアジア 研究科教員室	414 グローバルアジア 研究科	415 研究室	416 研究室	417 研究室	418	階段	給湯	419 コピー室	420 研究室	421 研究室	422 研究室	423 演習室 会議室	EV 出入口
	412 グローバルアジア 教材準備室	411 グローバルアジア 研究科	410 グローバルアジア 研究科	409 コスボ 演習室	408 研究室	407 研究室	男子トイレ	406 研究室	405 研究室	404 研究室	403 研究室	402 研究室	401 研究室	

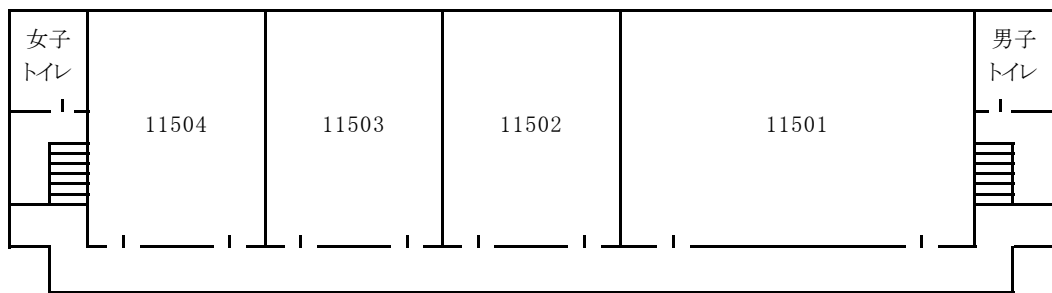
3F	313 体育学部 倉庫	314 教務課	315 アジア 資料室	316 学芸員 演習室	317 日本語 演習室	318 社会科 演習室	階段	給湯	319 教務課 倉庫	320 教務課 倉庫	321 グローバルアジア 研究科自習室	322	323 受付 事務課 倉庫	EV 出入口
	312 Asiaフレンズ 資料室	311 英語科 演習室	310 BM5 演習室	309 グローバルアジア 研究科	308 教務課	307 教務課	男子トイレ	306 警備員 控室	305 警備員 控室	304 教務課	303 常任 理事室	302 コスボ 演習室	301 研究室 初等資料室	

2F	練習室 15	練習室 14	練習室 11	練習室 10	レッスン室 2	音楽研究室	階段	給湯	204 グローバルアジア 研究科自習室 (パソコン室)	205 グローバルアジア 研究科長室	206 グローバルアジア 研究科資料室	EV 出入口
	練習室 16	練習室 13	練習室 12	練習室 9								
	練習室 8	練習室 5	練習室 4	練習室 1	レッスン室 1	音楽準備室	女子トイレ	203 グローバルアジア 研究科自習室	202 大学院事務室	201 イラク研事務室		
	練習室 7	練習室 6	練習室 3	練習室 2								

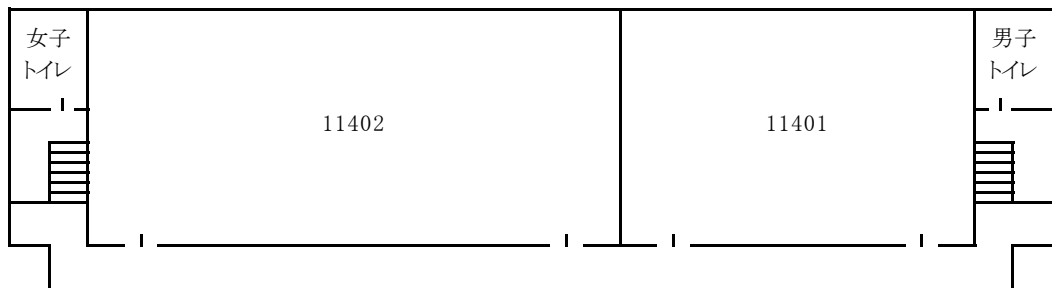
1F	学生食堂(アンبران)						階段	給湯	キャリア形成 支援センター	学生食堂 (ルポ) ↑ 通路 出入口	談話室	EV 出入口

5. 11号館

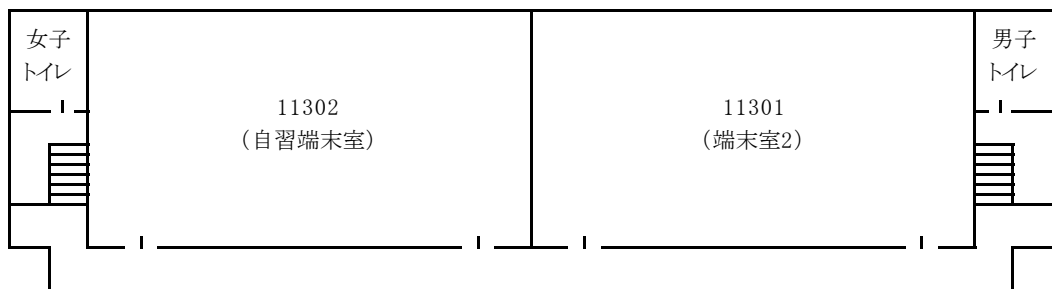
5F



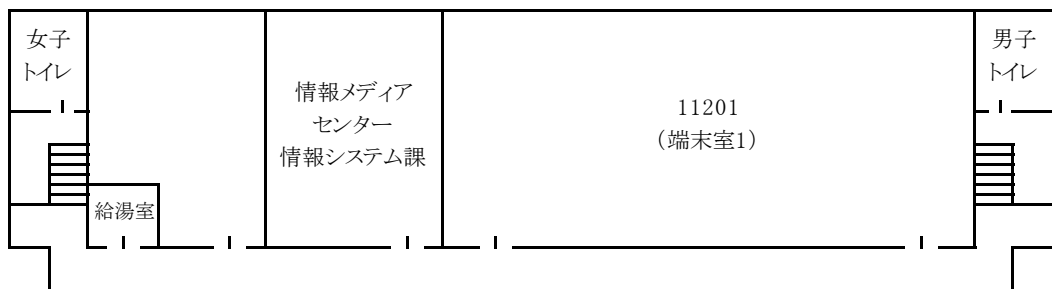
4F



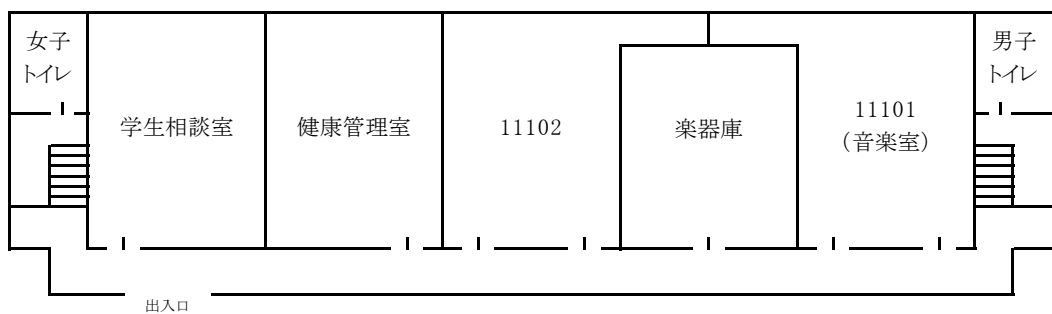
3F



2F



1F

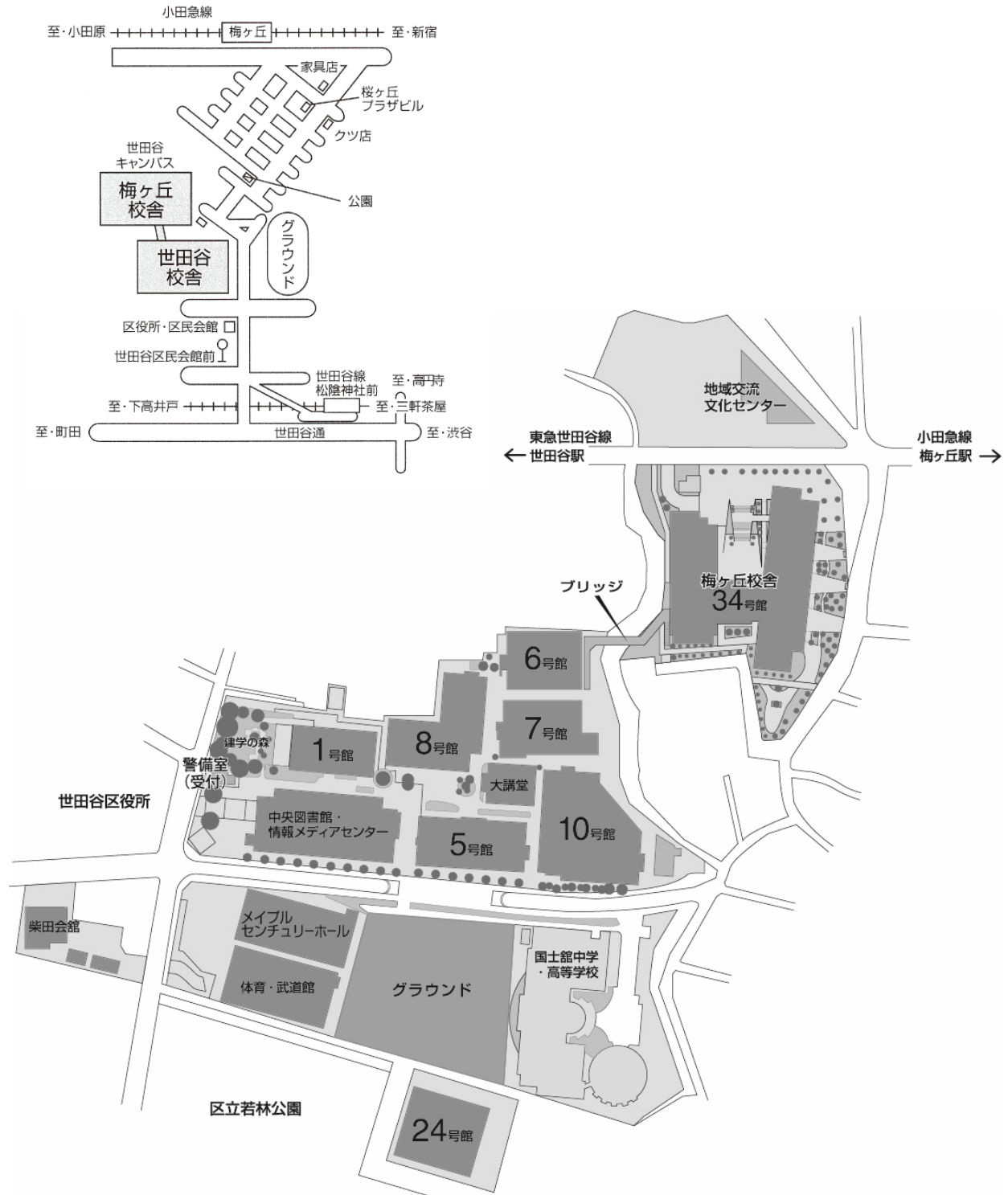


6. 世田谷キャンパス

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

03-5481-3111 (代)

- ・小田急線「梅ヶ丘」駅下車 徒歩9分
- ・東急世田谷線「松蔭神社前」駅 または 「世田谷」駅下車 徒歩6分
- ・「渋谷」駅南口バス乗り場 18番 より「世田谷区民会館行」バスで終点下車 徒歩1分

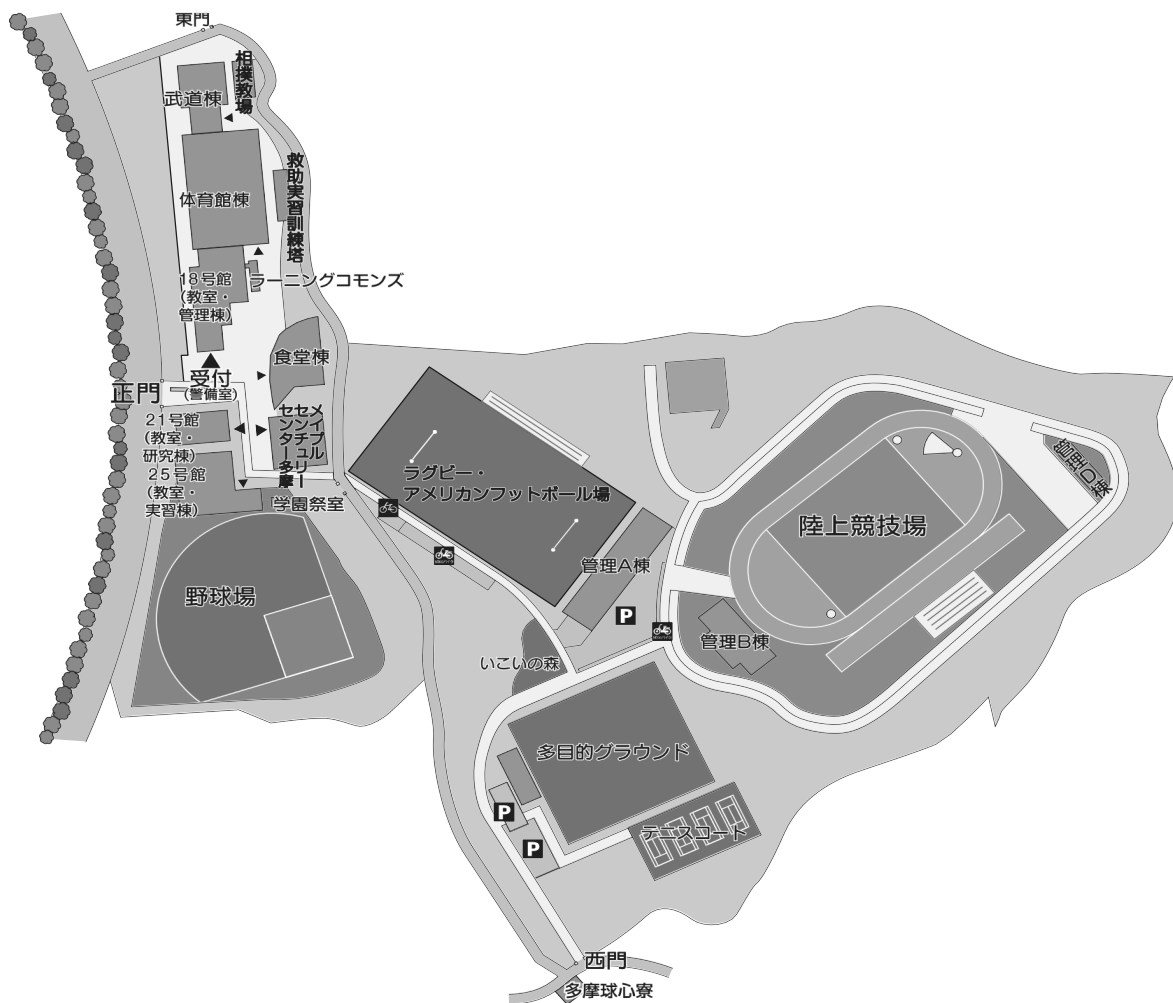


7. 多摩キャンパス

〒206-8515 東京都多摩市永山 7-3-1

042-339-7200 (代)

- ・小田急線・京王線「永山」駅下車 「鶴川駅行」バスで「永山高校前」下車徒歩5分
- ・小田急線「鶴川」駅下車／「永山駅行」バスで「永山高校前」下車 徒歩5分
- ・永山駅前～多摩キャンパス間のスクールバス（無料）



8. 学内連絡先

21 世紀アジア学部事務課

キャンパス・場所		電話	開室時間
町田	30 号館 1 階	042-736-1050	9:00~18:00 日曜・祝日閉室 夏・冬季の休業期間は閉室日があります
〒195-8550	東京都町田市広袴 1-1-1		

学生・厚生課（月～土 9:00～17:00）以下記載がなければ同様の時間

キャンパス・場所		電話	取り扱い事項
町田	13 号館 1 階	042-736-2316	奨学金・学生保険・課外活動(クラブ) おとし物・忘れ物・行事・賃貸物件・通 学届出・生活援助・アルバイト情報など
世田谷	34 号館 1 階	03-5451-8114	
多摩	18 号館 2 階	042-339-7225	

国際交流センター（月～土 9:00～17:00）

キャンパス・場所		電話	取り扱い事項
町田	メイプルホール 2 階	042-736-2317	海外留学・研修など
世田谷	7 号館 1 階	03-5481-3206	

教務課

キャンパス・場所		電話	取り扱い事項
町田	メイプルホール 1 階	042-736-2331	教職課程・他学部履修・単位互換・学費 納入・学内聴講・学生証等に関すること
世田谷	5 号館 1 階	03-5481-3203	

学生相談室 スケジュールは相談室前の掲示板でお知らせします

キャンパス・場所		電話	取り扱い事項
町田	11 号館 1 階	042-736-5498	学生生活などの相談ごと
世田谷	34 号館 A 棟 1 階	03-5451-8116	
多摩	21 号館 1 階	042-339-7365	

キャリア形成支援センター

キャンパス・場所		電話	取り扱い事項
町田	12 号館 1 階	042-736-2318	就職活動全般
世田谷	8 号館 1 階	03-5481-3308	
多摩	18 号館 2 階	042-339-7230	

健康管理室

キャンパス・場所	開室時間	校医診察	電話
町田 11号館1階	月～金 9:00～18:00 土・授業日以外 9:00～17:00	金 14:30～16:30(内科)	042-736-2319
世田谷 34号館A棟1階	月～金 9:00～21:00 土・授業日以外 9:00～19:00	火 10:00～12:50(内科) 木 15:00～17:00(内科)	03-5451-8115
多摩 21号館1階	月～金 9:00～18:00 土・授業日以外 9:00～17:00	月 14:00～16:00(内科) 金 10:00～12:00(整形外科)	042-339-7206

校医診療は事前に予約をしてください

障がい学生支援室

キャンパス・場所	開室時間	電話	取り扱い事項
町田 12号館4階 415	水・金 9:00～17:00	042-736-8147	修学上の合理的配慮など

図書館・情報メディアセンター 図書館

キャンパス・場所	開館時間	電話
町田 メイプルホール1～4階	月～金 8:30～19:00 土 8:30～18:00	042-736-2341
世田谷 中央図書館1～5階	月～金 8:30～20:30 土 8:30～18:00	03-5481-3216
多摩 18号館1階	月～金 8:30～19:00 土 8:30～18:00	042-339-7204

入館の際に学生証が必要です／休館日はホームページで確認できます

情報システム課

キャンパス・場所	Tel	取り扱い事項
町田 11号館2階	042-736-2344	Kade-i のアカウントなど

地域連携・社会貢献推進センター

キャンパス・場所	開室時間	電話
町田 メイプルホール1階	月・水・金・土 10:00～16:00 火 9:30～16:30	042-736-2327
世田谷 メイプルセンチュリー ホール5階	月～土 9:00～17:00	03-5451-1921

学生食堂 学内行事等により営業時間は変更になる場合があります

キャンパス・名称・場所	営業時間
町田 精養堂	メイプルホール1階 10:00～18:00
町田 アンブラン・ベーカリーカフェ	12号館1階 9:00～16:00
町田 新東京食堂 (ルポ)	12号館1階 10:00～18:00

学則・諸規程

1. 国士舘大学学則
2. 諸規程
3. 試験に関する学部内規
4. 教職課程学部内規

学則・諸規程

1. 国土館大学学則

「国土館大学学則」は、大学ウェブサイトから閲覧できます。



2. 諸規程

以下の諸規程は、講義支援システム「manaba」から閲覧できます。
コース名「〇〇年度 全学生向け連絡・お知らせ」



- (1) 国土館大学履修規程
- (2) 国土館大学教職課程履修規程
- (3) 国土館大学学籍管理規程
- (4) 国土館大学学籍管理規程施行細則
- (5) 国土館大学科目等履修生規程
- (6) 国土館大学聴講生規程
- (7) 国土館大学研究生規程
- (8) 国土館大学納入金規程
- (9) 国土館におけるキャンパス・ハラスメント防止等に関する規程
- (10) 諸資格取得のための受講料等に関する内規
- (11) 試験実施に関する内規
- (12) 公欠に関する取扱要領
- (13) 自然災害等に対する全学的休講措置の申し合わせ

3. 試験に関する学部内規

(目的)

第1条 この内規は、学則第48条および第50条に基づき、試験に関する細部事項を定めることとする。

(試験の種別)

第2条 試験は定期試験、追試験、再試験の3種類とする。

2 定期試験は、春期および秋期に每期1回定期に行う。

3 追試験は、定期試験の受験資格を有するものが、病気、忌引その他やむを得ない事由によって定期試験を受けることができなかったときに、担当教員が認めた場合に行う。

4 再試験は、4年生(高学年生を含む)が、秋期末(9月卒業予定者は春期末)に合格点に達しなかった科目があるときに行う。

(試験の方法)

第3条 試験は、原則として筆記試験とする。

2 第1項の規定にかかわらず、レポート、論文、平常の成績等によることができ、筆記試験と同等に扱われる。

3 筆記試験の時間は原則として60分とする。

(受験資格)

第4条 各授業科目について、出席すべき時間数(試験時間を含む)の3分の2以上出席した者でなければ原則として試験を受けることができないし、当該科目の単位の認定を受けることができない。

第5条 学費その他納入金の未納者は受験することはできない。

(試験の監督)

第6条 試験の監督は原則として各科目担当の教員が行う。

2 教室の収容定員により、数名の監督補助者をおく。監督補助者は、教員のほか学部事務職員が務める。収容定員による監督補助者数については下記の表を目安とする。

表

収容定員	履修登録者数	監督補助者
50名以下の教室	30名以下	1名
100名以下の教室	50名以下	2名
150名以下の教室	75名以下	3名
250名以下の教室	125名以下	4名
450名以下の教室	225名以下	5名

(受験者の心得)

第7条 試験は公正に行われるべきであり、不正行為は厳に慎まなければならない。

2 受験者は、試験開始10分前に試験場に入場し、指定された座席に着席して、常に学生証を机上の見やすいところに置く。

3 受験者は、筆記試験中次の各事項を守らなければ

ならない。

- (1) 遅参者の入場は試験開始後20分までとする。
- (2) ノート、書籍等の参考資料を机上および引き出しのなかに置いてはならない。ただし、当該担当教員が特に認めた参考資料を除く。
- (3) 試験終了まで退場することはできない。また、やむを得ない理由により監督者の許可を得て途中退場をした場合は、試験会場に戻ることはできない。
- (4) 試験の終了者は、答案提出後にただちに退場しなければならない。
- (5) 退場の場合は、白紙答案であっても持ち帰ることはできない。

(不正行為)

第8条 次に示す不正行為および不正行為と疑われる行為については、厳に慎まなければならない。

2 筆記試験に際し、次の各号は不正行為とみなされる。

- (1) 身代わり受験あるいはその依頼をすること。
- (2) あらかじめ机等に書き込んだり、カンニングペーパー等を持ち込むこと。
- (3) あらかじめ許可された参考資料以外の資料等を持ち込むこと。
- (4) 試験開始の合図前に解答を始めること。
- (5) 他の受験者の答案を見ること。
- (6) 他の受験者の答案を作成すること。
- (7) 言語、動作等をもって、受験者相互に連絡をとること。
- (8) 許可なく席を離れ、又は監督者の指示に反する行為をすること。
- (9) 試験中に物の貸し借りをすること。
- (10) 試験中、携帯電話を使用すること。
- (11) 試験終了の合図の後に、筆記用具をもっていることや解答を記入すること。
- (12) その他不正行為と疑われるような行為をすること。

3 レポート、論文を含む試験に際し、次の各号は不正行為とみなされる。

- (1) 他人の文章や答案の丸写し、無断引用などにより、不正に作成された答案を提出すること。
- (2) その他不正行為と疑われるような行為をすること。

(定期試験(定期試験に準ずるものを含む)における不正行為者に対する処置)

第9条 定期試験(定期試験に準ずるものを含む)において不正行為を行った者、受験態度不良もしくは監督者の指示に従わない者に対しては、学生証および答案その他を取り上げ、退室を命じるものとする。

2 不正行為が認められた場合は、当該科目のみならず不正行為認定後の受験は認めない。

3 追試験、再試験の場合も前号に準ずるものとする。

4 定期試験(定期試験に準ずるものを含む)以外の不正行為については、各学部で、別途、定めることとする。

*不正行為者は、当該期の全履修科目の単位認定がなされない（通年科目を含む）。あわせて学則第73条に基づき、懲戒処分の対象となる。

（追試験、再試験の手続きおよび受験料）

第10条 追試験は、当該科目に対する試験欠席届をあらかじめ提出し、当該担当教員の許可を経なければ受験することはできない。

2 再試験は、定められた期間に申込みを行い、当該担当教員の許可を経なければ受験することはできない。また、受験できるのは2科目までとする。

第11条（削除）

第12条（削除）

附 則

- 1 この内規は平成16年11月1日より施行する。
- 2 この内規は平成21年4月16日より施行する。
- 3 この内規は令和2年4月1日より施行する。
- 4 この内規は令和6年4月1日より施行する。

4. 教職課程学部内規

A 全教科共通

(1) 1年次の履修条件

- ① 4月のオリエンテーション期間に開催される、学部の指定する教職課程関連の説明会にすべて出席していること。
- ②「教職課程履修申請書」を提出し、受講料を納入していること。

(2) 2年次の履修条件

- ①1年次終了時の取得単位合計が30単位以上であること。
- ②教職専門科目の取得が1年次に取得可能な科目数の3分の2以上であること。
- ③1年次に開催される、学部の指定する教職課程主催の説明会や行事にすべて出席していること（2年次より教職課程を履修する場合は1月の説明会に出席すること）。
- ④「教職課題研究Ⅰ」の単位を取得していること。

(3) 3年次の履修条件

- ①2年次終了時の取得単位合計が70単位以上であること。
- ②教職専門科目の取得が2年次終了までに取得可能な科目数の3分の2以上であること。
- ③2年次に学部設置の教職用「基礎ゼミナール3」および「基礎ゼミナール4」の単位を取得していること。
- ④2年次に開催される、学部の指定する教職課程関連の説明会や行事にすべて出席していること。
- ⑤「教職課題研究Ⅱ」の単位を取得していること。

(4) 4年次の履修条件

- ①3年次終了時の取得単位合計が100単位以上であること。
- ②教職専門科目の取得が3年次終了までに取得可能な科目数の4分の3以上であること。
- ③3年次に開催される、学部の指定する教職課程関連の説明会や行事にすべて出席していること。
- ④「教職課題研究Ⅲ」の単位を取得していること。

(5) 教育実習（4年次）の参加条件

- ①「教職課程履修要項」に記載された、教育実習参加条件を満たしていること。
- ②3年次で行う「公開模擬授業」の最終試験に合格すること。

B 英語（中学校一種（英語）、高等学校一種（英語））

(1) 1年次の履修条件

- ①「中学校一種（英語）および高等学校一種（英語）」の2種類全ての免許状の取得を希望していること。

C 社会系（中学校一種（社会）、高等学校一種（地理歴史）（公民））

(1) 1年次の履修条件

- ①中学校一種（社会）の免許状の取得を希望していること。
- ②高等学校一種（地理歴史）あるいは高等学校一種（公民）の免許状のうち、1種類以上の免許状の取得を希望していること。

(2) 2年次の履修条件

- ①中学校一種（社会）、高等学校一種（地理歴史）（公民）の3種類全ての免許状の取得を希望していること。

【教職課程履修の開始時期について】

- ①原則として1年次より履修をすること。
- ②2年次以降に履修しようとする場合は、履修登録前に担当教員と面談をしなければならない。
- ③編転入生については、これまでの履修状況により別途指示する。

【学内聴講生（大学院生）の受け入れについて】

- ①学内聴講生が履修しようとする場合は、出願手続前に担当教員と面談をしなければならない。

【科目等履修生の受け入れについて】

- ①本学部卒業生であること。
- ②他学部および他大学卒業生の場合は、取得希望の免許状と同一校種の免許状（中学校・高校の別および教科は問わない）を取得している者であることを原則とする。
- ③履修科目については、あらかじめ学部より特定のクラスを指定する場合がある。

【教職課程履修の辞退について】

- ①教職課程の履修を辞退しようとする者は、担当教員との面談を受けたうえで、「教職課程履修辞退届」を提出しなければならない。

【他学部での履修について】

- ①本学部以外で教員免許状に関連する科目を履修する場合の規則は、別途定める。

【他学部の学生の履修受け入れについて】

- ①他学部の学生が本学部の教員免許状に関連する科目を履修する場合、履修手続前に担当教員と面談をしなければならない。
- ②他学部の学生も本内規に則り履修を行わなければならない。

【附則】

本内規は平成24年4月1日より施行する。
本内規は令和4年4月1日より施行する。
本内規は令和8年4月1日より施行する。